

秘密指定解除 極秘
情報公開室

日米首脳会談 (第一回 會談)		
1972年8月31日 13:20 - 14:55		
3名 クイック フォロー		
出席者	日本側	田中総理大臣
		半場大使 宇川北米サニ
		澤登 (通訳)
	米側	ニクソン大統領
		キッシンジャー補佐長 ワイツ
		ケル (通訳)
田中総理	ハワイへの招待を感謝す。 場招	
行が早くして、できる限り早く、時期に貴大統領		
と会談のやり取りと手配をいたす。		
まず 天皇陛下の アンカレッジへの出迎		
ええ、ありがとうございます 日米友好関係がますます		

強化したことを期待することの言葉をお伝え

いたしたい。

また佐藤前総理より、●沖縄返還に

つきの盛大饗飲の場臺北に對する謝辞を

お伝えす。佐藤前総理は近く訪米し、

自ら改めて謝意を述べたいとのことである。

＝大總統 佐藤総理は古い友人として

いつでも歓迎申し上げる。

天皇陛下に對しては自分の最大の

敬意をお取り述べたい。

天皇陛下は、米國を公式に訪問に

双方に

3

いかにこの場合の都合のよい時期を見出したか。

東洋中心

また貴総理も選挙が終われば是非ワシ

トでお見えになる。この種の部内は

公的義務の履行というのみならず、個人

的友情を深めるためにも必要である。

的友情を深めるためにも必要である。

総理 同感である。

大総領 自分は1950年代以降しばらく部

内に、吉田、岸、池田、佐藤 などに今回

田中の5人の総理 ~~と~~ 知己となつた。

他の主要な国。総理に対しても抱か

ような個人的友情の念を抱いて、

日米関係は 特別の関係 (special relationship) と考えており、牛場大使も御存知の通り、佐藤前総理とは キンシージャーを通じて 特別の連絡のチャンネルをもつていたが、貴総理との間にも同様のチャンネルをもつていたと考へている。

総理 日本が 特別の関係にあつては 同感である。貴大統領は 本年1月サウクレマで、さうして 今回 ハワイで お会いになるが (公的でも私的でも 幸ひの会は 有るがある。) は 欣ばしいであり、また キンシージャー補佐長が 先般 東京に 来てくれたこと ~~を~~

多にしている。

池田総理、佐藤総理は それぞれ自分の

18才及び17才の年長であつた、議員にいは

9回当選し 自分の10回に及ばない。

これによつて われわれは 日米、日英関係の重視

す。吉田総理の門下であつた。太平洋

岸出身の 初の大統領 及び 貴大統領に

期待をしておる。

日米間では 不断の交流も行つて

(キッシンジャーより「政治的・経済的な」と口をゆきむ)

が必要である。経済分野に於ていへば、

米国の繁栄は日本にとり不可欠である。

従つて 種々の問題を一舉に解決する。

これに困難を覚え、不斷の連絡 協議

により 長期的に 費用整へはかつて行なふ。

大総領 又うーう趣旨で 実業人の インガソール

を 駐日大使に任命 した次第である。 貴

総領は 実業家としても 成功されたこと

うかばつたり、また大蔵大臣、通商大臣を

歴任に おうけるので 特に 経済問題

に明るい 総領と考へている。

ケネディ旧財務長官が コンケネクル・インノイの頭取

総領

インガソール大使に 旧知の面柄であるが、

同大使は 経済に 明るい人であり、問題は

あつた
は
ら
う
の

の発生前に 調整する 併に心得ている人
 物であつ。
 (いつも官廳の窓口たけに接触している。一歩進歩するおそれがある)
 日米間の貿易の長期的バランスをいかに
 には 専門家の ~~意見~~ の意見を聴くことが
 必要である。インガソール大は ^は 政府のみにあらず
 (財界にも多く)
 日本の財界人とも接合している。
 大統領 日米間の貿易不均衡是正の機会には
 難い問題であつたが、若干の進展があつた
 (既に counterparts の間、技術的接合が行われていたと承知する)
 ことは喜ばしい。自分が指摘していたのは、
 日本、利益
 現在のよう不均衡は 短期的には ~~い~~
 のように見えるが、
~~かゝる~~ 米国内の保護貿易論者の

勢力を増大せしめることにより、長期的には

結局日本に与へる不利益となるであろう。

ある。かかる不均衡を正せる限り (as

much as possible) 改善する事は 日米

相互にとって利益となる。

短期的

日米両国。実業界は 自らの利益に

反するものは反して 短期的利益に動か

される。したがって 両国の指導者は 長期的

貿易障壁軽減の環境をつくりださねばならぬ。

的視野に立つて問題を考へねばならぬ。

そのためには

~~その指導者は~~ 不均衡を是正し、

貿易障壁の除去が 両国の利益になる

二とを 議会で 納得 させなければならぬ。

米国も日本も 競争的 (competitive)

な 国 柄 であるが、公正な 競争に 参加 する

ところである。 ~~二とを~~ 貿易 障 害 を 除

去 しようとの 日本 の 努力 は 米 国 の 議会 及び

各 論 に 好 影響 を 与 える ものである。

総 理 不均衡 が 両 国 に 対 し 利益 不

な い ことは 同 感 であり、是 正 に 努力 する。

もとめ 半年 や 一年 で 解決 しよう としている

けり。 しか し 自分 は 大 蔵 大 臣 3 年、

(二とを 経済 内 閣 に 委 託 する)

通 商 大 臣 1 年、幹 事 長 2 年 経験 あり、

ニカを生かして 自分ゝ在職中に 日米貿易

を理想的なものに 仕上げて行く 夢まで

ある。

大統領 貴総理は ビジネスについて 専門

素人の自分か、

的知識を有しておられるので、貴総理と

経済交渉を行えば 自分が 損をなさう。

しかし貴総理の 御意見は 敬服する。

任期は 何年か。

一回期 再任あり

総理 党総裁としての任期は 3年である。

日本において

大統領 貴総理は 最も若くして 総理

に任ぜられた一人と 伺っており、 今後、長く

その職務を委ねらるるものと思う。

総理 自分は代議士としては最年少で当選

した。党総裁は二期6年続けたことになった

おりそれ以上は党則変更を要する。

と云うが、日米経済関係の重要性については

さらにエバリー代表やインガソール大使にも話合つた

(この問題)は自分だけはいち早く出て行く。^{日本が経済を}
と云うのであるが、^{はたして}ドル価値が維持され、アメリカ

経済が拡大していくことは 世界平和のため

に不可欠であり ^{果実の}日本のためにも不可欠である

と考えている。そのため協力をお願いする。

大蔵大臣 その事情はお互い様であり、強く

かつ健全な日本経済は米国のため

に利益がある。自分たちは日本が軍事的役割

を果たすことには問題があることも承知している。

しかし一国の経済的影響力というものは

極めて重要であり、経済的に強力な日本

が東南アジアと太平洋地域全体の

経済発展を助けようとして認識している。

米国の新聞に日本の激しい競争を非

難する聲が現れているが、自分たちは同意

しない。公正な競争はむしろのびのび

ものである。ただし不均衡が余りに

大まかな予想では 双方に好ましい。

総理 自分としては 両三年内に 平常収支の

黒字の幅を 国民総生産の1%程まで

し、その分を 対外援助に振り向けて

考えている。また 日本としては 政府援助

0.7%の目標を速かに達成したいと

考えている。

また、

日本は豊かになったとはいえ、東京

(9内題)

大阪をはじめとする 都市への人口集中 などが、

都市改造、住宅建設、公害対策、社会資

本の充実等の課題に直面している。社会

資本の蓄積^率において日本は 米国に 及ぶかに

及ばない。従って 今後の日本は 国内において

超大型投資を行わねばならない。内において

は国民の生活環境改善の投資を行い、

外に対しては 後進国 援助を進めるべ

きである。援助については 東南アジア、

韓国等には 具体的スケジュールを定め

効果的な援助を行って行く 方針であり、

また ジェネラムに於いて 戦火が収まった

場合には 民生安全のための援助を大

幅に拡大するべきを考えている。日本は

UNCTADで 90年代中に 政府援助も

国民総生産の 0.7% にする ことを約束した

が、これは ^{死に} 自衛隊の予算と ほぼ ^半 同額 ^半 である。

日本は 米国の援助を待て 過去 4分の1

世紀中に 大々の 経済成長を 遂げることが

であるが、^(充分協議 作らねばならぬ) 今後は 低開発国の 開発のために

充分の 負担をする べきである。

大統領 ^(南米 2ヶ国) アジア太平洋 地域における 日米

利益を 得る。

の 経済的 利益を 得る。 具体的に

は インドネシア、タイ、インドシナ 半島が 考え

られ、さらに インド、パキスタン、バングラデシュ

等の開発も対象となるが、最低のレベル

を3)上げることが、最高のレベルをさらに3)上

げるのである。

キツンビヤが西欧諸国に日頃かう説

いているところであるが、今日では日本の役割は

はもはやアジア太平洋地域に限らない。

日本はソ連、西欧にも匹敵する経済的

パワー・センターである。この意味は日米

間のみならず、^米日本とECとの協力か

のむき合い。

総理 日本とECは拡大EECとは今後

^間協力にいく方針である。

しかし日本が実力をつけたいのは最近

であり、かつ安保理の常任メンバーでもなく、

積極的

政治的役割も果たそうとして ^{すると} ~~して~~ 欧州の

反撥を招くおそれがある。この意味で

紹介

米国の ~~積極~~ がほしいところである。

大綱領 日本を安保理の常任理事国とする

これは米国の方針である。言明に先立ち

ヒース、ボンバー、ブライトと会談して了解

自分としては 米、西欧と並 ^(3国として) ~~並~~ 日本的重要

性を強調した。

キツンジャー ヒース首相が 9月16日に訪日

する前に、いわば「バーミダ」会議の系統と

に日英の協力関係について ヒース首相

と連絡をとる * こととしている。 この点は

内密に願う。

大統領 米国の こういうことをするが、それか

米国の自らの利益でもあるからである。 拡大

● ECは巨大な経済力を保有する。 従って

日米両国が 外部に留まって 寧ろ EEC

ものむき込めというわけでは 不十分であり、

日米としては EC に加盟は しないか、 EC

の指導者と協力体制をとり、破壊

的ではなく建設的な競争を行うように

こちやわばなうな。

総理 明年1月 英国が EC に加入した

後、EC が域内経済中心の いわば 欧

州 モノ一主義へ走る 恐れがある。 これ

に加えソ連、中央が 経済的影響力の拡大

をはかろうとしてくると、世界は 甚か ゐっかし

ことになる。 従って 米、日本、EC が 相互

の連絡を密にし、~~援助、貿易の拡大等~~

~~相互に協力する~~ ちやわばなうな。 その際

米国の自由貿易の中心であり、アメリカ

を中心として日本とECが結ばれ、他の

~~自由貿易と協定を結ぶという方針~~がのびる。

大統領 貴総理は近く北京を訪問される

が、日中関係の将来をいかに評価に

おられるか。 自分が指摘したいのは、

中共に対する日米の目標が同一 (Identical)

である必要があるということである。 日本の総

理大臣の目標は 自国の利益に奉仕

することであり、米国大統領と同じこと

である。 かく日米両国の overriding

~~interests~~ とい、日米両国が 中国政策

で 相反したり 対立したりすることの多いよう

に思ふべきだと考へるゝので、この問題をもつて

申し上げたい。

総理 結論から先に申し上げると、まず

日中国交回復により 日米関係が 不利益

を蒙つてはならぬ。日中関係の改善は
国交の回復

最終的には米国の利益とつながりうるこ

考へる。

中国に対する方針として 二つの行な方

が考えらるゝ。その一つは 中共 封じこめ

であり、もう一つは開放体制を維持し

中共をこれへ導くやり方である。日米両国

は対ソ政策の先例で聖戦を有しているが、

生活水準の低い国を封じ込め 強国を

強いると、先方はかえって国内的に團結

するし、さらに北越援助の動き等に

熱を上げがうとなる。開放体制への導く

貴大統領の北米訪問の結果、北が対米を嫌
が良策があるから、自分たちはもう

撃いし中共が北越を援助しにくくして北が不利。
方向へ進むべきである。

貴大統領^が訪中、訪ソの結果

中共及びソ連とパイプを通じさせ、その上

北ザイトナムなど 北火暴強化等の

短期決戦を挑んでおられるものと評

価している。

日本と)

中国との関係は明治以来百年間の

堆肉いあが

~~多岐な背景に~~、強い兵論もあるのだ、

正式の国交を回復するところまで行かざ

るまい。 国交回復自体が マスコミが

喧伝するよう メリットがあるものとは 自分

せき止められている。

は考えない。 けれど これは 大まか 流れで

~~る~~ 大まか メリットもな 代り 大まか

マイナスもな と思っている。

~~マリアナ・マリアナ~~ 日中間の国交が正
 常化すれば、中共の対日敵視政策と
 対比する間には柔軟な対応を
 やめるよう、~~その~~ 北朝鮮への支援や台
 湾解放、東南アジアへの軍事援助、か
 国に対する内政干渉的行動等も
 止めるべしというべきはつきり言えるようにある。
 北朝鮮がメロウと言えはメロウである。
~~北朝鮮~~ 内政干渉は台湾がある。しかし中国
 との関係が現状のまま推移すれば、ソ連
 がかくつか束縛されてくる。
 北朝鮮の出発点も内政干渉である。ソ連はすでにウ
 ジェストックという不凍港を有して強力
 (朝鮮海峡、南シナ海を自由に航行している)
 な海軍を保有しており、今後台湾と

ソ連との関係も微妙である。しかし米國

米台条約

の台湾に与るコミットメントがある限り大丈夫であ

る。

(日本の立場は)

いふかによ、太平洋をへだてて中国を見

米國が中角

いる米國 ~~の~~ 立場とは異なる。米國

米大陸に付具体的に知つてゐるのと同様、日本は中國のことも

に対し特殊の感情があるから、(何時 よめい)

まづも同支断絶状態を繼續するに

つづける。

は國策は不幸情にあるので、無理難を

得ない。

大統領 最近 タイタム首相から内密の

メッセージを受取つたが、その内容は

田中総理の訪中で、いかなる話合も成立

しようとも、台湾の経済的利益は保全

されるべきであり、この英米間のタイの懸念

を自衛(大統領)から直接貴総理へ伝

達してほしいというものであった。台湾

の経済的自立性の保全は米國とこれ

重複するところであり、上海コミソールでも

おわりのとおり米中が agree to dis-

agree になる問題である。米國は台湾

の経済的自立のため できる限りの英米

をすすめる方針である。この英米間、台湾が

現に 国際金融機関において保有している

議席が維持されるよう 米国はできる

限り盡す心算である。これは、台湾の

議席保持が 台湾の経済的自立性

(viable strong economic power)

の確保上 極めて大切なところからである。

台湾の指導者は 貴総理の訪中を

これは自分にとって、貴総理にとって、むかし内閣の

大きな関心をもつて注視している。日本同様、

小さくとも台湾には 政治、経済、軍事、及び

指導者間の

個人的な関係も存在している。しかし 日米両国

は やい異なった事情から、それぞれ 中共に対し

はうなっている。

従来とは異なった関係に入る。

~~判断も七つあるが、そのうち現状にある。~~

貴総理が北京でどんな態度を

(not presume to suggest)

とらえるべきかを示唆する気はないが、

自分の経験から申し上げれば、中米、ソ連に

(除く必要を)

折衝する原則はプラグマティクを旨とす

いと行かぬ。矢張り指導者の敬意を得る

ことである。中ソ両国はともに日本

を経済的巨人として評価している。従って

日本においては彼らに対し口實を要するよう

(position of a supplicant)

な態度をとる必要は毛頭ない。

共産主義国、これに中ソとの関係の

●改善~~は~~は、相互の敬意と

平直な討議によつてのみ実現~~し~~し、

というが、米国の経験がある、^{マニラ}マニラによつ

て実現するものではない、^{中ソ}中ソに対する

日本の立場は米国のそれと類似しており、日

(その独自の理由から)

本も両国との関係の改善を必要とす

いるが、アムステルダムも北京もそれだけの理

由から日本もやはり米国との関係改善を

必要としているのである。ここにこれらの

(と云ふ)

国との関係改善する基礎があるのである。

キッシンジャーが、この辺のことを心得て

確たる態度で日本人がこれにより、中ソ両国

との関係改善の基礎が築かれたのである。

キッシンジャー この成果は自分ではなく、全く

大統領の業績に帰すべきものである。自分

としては北京訪問の際、大統領の指示に

基き、相互性の原則に立つこと、米中

それぞれ友好の犠牲において接近を

けることはしない^{こと}というラインで話合っ

が、これが成った原因があった。当時

牛場大使は、この点に疑念をもち、2日

に1度位、自分のところへ来うした。

大統領 プレスへの説明ぶりについてであるが、

中国問題がとり上げられたことへの、日米

双方が夫々の必要及び利益に従って

中共との関係を進めよう行くが、両国は

相互に相手国の対中政策に影響を及ぼす

ことは試みながらというラインで説明する

のがよいと思う。

総理 それで結構である。念のため申し上げ

させていただきます、日本は北京の敷いた

レールの上に立つて国交を回復するのには

...な、即ち先方の言っているには決してなうぬ

ということである。日本の自由圏の一国と

この立場、日米関係への配慮の上に立つて
回答を予おにきう第提い
 言合うのである。

日中交渉の模範については すべて何

連絡する。

大分々々 中央の指導者は intelligent

pragmatic で かつ hard bargainers

である。しかし一旦約束したことは

きちんと (impeccable) に守る。

彼らのもう一つの特色は、長期的な

ものの見方をして、短期的利益の考慮

の政に 長期的視野 を見失うことは

ないといふことである。

総理 日本は過去百年間 絶えず 中国と

の間 戦争、紛争をくり返してきた。それ

だけに中国にフタは かなり よく知っている

面もある。過去 ~~40年~~ 4分の1を記

(先方が望んでいるかわいす)

は 国交が正常な訳であるが、 結局

中共と対峙するよりも、国交を正常な交際

ルートをとつ方が 究極的に アジアの 平和

に寄与すると思ふに至つた。 国交が

樹立され ~~内政~~ 内政 不干渉 の原則を

つらぬき得れば「プラス」である。

大統領 うまく行いをも望む。(hope for the best)

総理 日米間の利益は必ずある。ついでに

台湾問題について 米国の支援、~~韓~~ 韓旋を

必要とする。

大統領 明日は台湾についで さらに少く

ふれたく、また朝鮮問題についで討議

したい。ドイツ国内問題についての米側の

考え方も申し上げたい。

総理 朝鮮の話がそのついでに申し上げる

が、韓国は日本防衛上の生命線である

あることに変わりない。日本には韓国

を経済分野等へ援助するが、米国

としては駐留軍を撤収しないでもう

たい。

大統領 しないつもりである。(We will not)

キッシンジャー 韓国の安全は日本自身の

安全と切り離せない。安保条約上の

(在日)

基地の使用が制限されることになれば、

結局は韓国に米軍を駐留させること

もできなくなる。

大統領

の防衛と
日本、韓国、~~台湾~~の防衛は

分離して考えることはできない。

キッシンジャー

~~その意味は~~ 最近 戦車

が動けなくなっている。

~~輸送阻上事件のジャコ 事態が荒々~~~~するところはないが、~~

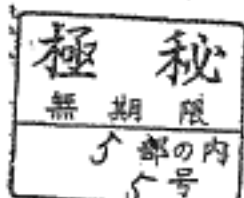
総理

~~所得年約を堅持する。~~ 戦車

問題は速かに片づける。

(3)

米↑



秘密指定解除
情報公開室

アメリカ局長

第1回合同会談

昭和47年8月31日 午後3時10分～4時5分
在 1442 ホール

出席者： 日側： ニクソン大統領、ロジック
國務長官、シムソン次官、キーン
VP-補佐官、クーン次官、

トッド・マック NSC Senior Staff
ニクソン日本総長、通訳 ウィン

日側： 田中総理大臣、大平
外務大臣、南場大使、鶴岡外務
参議官、志田了次局長、大河原公使
橋本アメリカ局長代理、通訳 宇川

(総て里:大統領以下番第)

ロジャース表官: 新はじめに、今迄大平大佐との
内閣連絡の合意を要約して大統領
と総て里に報告して、い。

田中総理の訪中前として、
日本の対中政策の計画について大平大佐から
の報告が、大佐は、日中関係を象徴的に
日本安全保障を要するところから、真剣
に配慮する必要がある。台湾とも良好な関
係を保つて行くが、中共と正式に外交関係を
結ぶ結果として、台湾との外交関係は
必ずしも保つておく必要がある。我が国は
この方針を強調して、
新大平大佐の下、

関係改善にあり、これが友邦、同盟国
への台湾、韓国を決定して、

関係改善にあり、これが友邦、同盟国
への台湾、韓国を決定して、

これはいい。台湾との外交および安全保障関係
 を維持し続け、韓国の利益を害さない。
 即ち、かつての敵との関係改善にある建
 友邦、同盟国に対する支持は常に続けて
 行く。と意図である。特に、台湾の世銀
 IMFにおける地位について日本の協力を
 を求め、^{北朝鮮の}同連合会における朝鮮問題
 について日本の韓国に対する支持を求め
 るに、^{同じく北朝鮮}同じく~~北朝鮮の~~北朝鮮の
~~北朝鮮の~~北朝鮮の地位の「チャレンジ」に
 関する可能性にも言及した。

大平大臣は、中東との関係正常化に
 ついて日本政府の見解を極めて率直
 に述べられ、私は^{北朝鮮}北朝鮮
^{北朝鮮の地位}北朝鮮の地位は日本
 政府の求めているべきこと

であり、本国政府としては何のアドバンテージを
 与える立場にはない。むしろ同時に、
 日米協力して、相互の利益に資するよう
 協力して行くべきことを提議した。また、
 この機会に、大平大任が日米協会に^{あい}参りて
 行われたスピーチに言及し、そこは素明
 確に^{政策は}建設的かつ思慮深い
 (constructive and thoughtful)
 ものであり、日米政策は多岐に及ぶが
 一致している。日米双方が新しい方向
 に何を行くとして、何題もあるが、相互
 の利益に資する方向で協力して^{行けば}共通の
 結論が^{結論}出て来るであろう。むしろ、
 次いで大平大任から、要約を述べた
 べきである。

大平大蔵: 最初に 今回 ニクソン総欽
 が 田中総理の お誘い、私共一行を
 迎えて 話し合ふの機会を 授けて下さる
 ことに 感謝して、^{今後} 一先 貴官に於いて
 中米との国交正常化を お話しするに 至る ^{機会}
 を ^{述べ} 説明し、田中政権が、正常化の機を
 熟慮して 判断して、政府自身の手で
 進めようとする 意気込みを 説明し
 れば、此の 基幹的方針として、日米友好
 関係、特に 此の象徴たる 日米安保
 体制を 何ら 揺るがす ことのない 方針に 固
 意する、その決意を述べた。日米の
 中米に 対する立場、アベ一人は 自らから
 思ふ所、^中 米国の 関係を 改善
 (improve) しよう、此が 国は

2. 归一化 (normalize) $1 \leq i \leq n$

親の心、わたしの心は母子関係は
日常関係には、生ずるに
わたしの心は いそがしき 責任 もな。
(基本的な)

と述べて、それが「国」として、中国への道は

たぐい、狭いもの2つあり、これは承知。

12~30代、社会主義的で面白、最近

の化学政教の反応3つから見ても、

2015不可能 21年你必死 ~~判断~~ ~~2013~~

1234-2 表紙より 平国^{平定}の訂正政策にて

乙親明を愛し、己の、三十一日午後、五時

12-12 通の強い。子。目の

めざす目標は共通^{である}。お互に認識し、その

家計に於ては、慎重に計画するに

今後、同所のな意見交換を通じて

相互の理解と協力と深めよう

たこと述べた。続いて経済問題に入り、

「1973年」の合同会議の始まる頃、

私は「金」の件について、

申し述べた。第1に、田中総理の強い

リーダーシップの下で、日本国^の収支バランス

を ~~2000~~ ACCEPTABLE 水準にまで

下ろすことが、機会に接して行くべく、

諸国^の協力も全うして協力してやるもの

第2に、日本^の国の目標は、国内経済

の景気を浮揚して、積極的に新

入増産をはかることにあると協力して

やる。

この本筋合意：私と田中総理との合意も

大体同じような内容でカバーして

そのキー・ポイントは 偉大な国家はどの国でも、自国の
 最上の利益を追求して、自分自身の政策を発展させて行く
 ものであるということであり、日米両国においても、^{利益を追求して、各自の利益を}その
 通りであって、それぞれ自身の政策を発展させてゆくが、^{（の2つあり）}両国
 間^の ~~conflict~~ ^{conflict} ~~と~~ ^{を避けることにより、} ~~また~~
 の最上の利益が達成されるものと考えようということである。
 従って、^は米~~国~~が北京及びモスクワとの関係を改善していく
 にあたり、日米関係を害を及ぼすような取極めや申し
 合せは行なれないという事に~~最大~~ ^{最大}の考慮を払^てくと
 は言っても、日米両国の政策が、全く同一というわけではなく
 それぞれの戦術 (tactics) や タイミング には、おのずから差
 がある。経済面に於いても、政治面に於いても、重要な
 点は、常に話し合っ、両国の政策が衝突おおるコースをたど
 るまいようにしていくこと (avoid a collision course)
 である。

中米関係の改善をより速く努力しているが、然
 が決して、日本との関係を悪化させるようなことがないよう
 にと配慮している。~~あ~~日本との友好関係は、米
 国の外交政策の基礎的柱石 (fundamental corner stone)
 である。我々は日本の役割は太平洋地域のみに留まらず、
 世界全体にとって、重要なものであると考えている。過去におい
 て、アメリカの政策は 欧州一辺倒、あるいは、太平洋地域
 一辺倒のどちらかにかたよることがしばしばあったが、今
 両地域に同じ比重を置いて、全体的にとりのある政
 策 (total policy) をとてゆくことが、最も米国の利益に合致している
 のと考える。一部に於いては、日本を太平洋地域ある
 いはアジア地域の強国 (a Pacific or Asian power)
 と過ぎないと考えるべきがあるが、日本の経済力は自由
 世界第2位に達していることからみて、日本は米国と同様に
 世界的な強国 (a world power) になっている。即ち、状

況は過去20年間に大きく変わったのである。20年前には、米國にとって、英國が重要であり、英國が何をするか、米國の政策に大きな影響を及ぼした。その後フランス、ドイツの再建が進み、イタリヤも加わって、ECが出来、いわば、EC諸国と結^{結ぶ}か^かつければ、自由世界の経済は大丈夫と^{ある}いう傾向があった。しかし、Aや日本のGNPは欧州のどの国よりも大きいものになっており、日本は眼を国内のみに向けず、広く世界に向けて、その関心は、米國、ヨーロッパはもとより、ラテンアメリカやアフリカに迄及んでいる。このような状況の下に、自由世界のどの国の経済が成功する為にも、日本は米國及びECと平等の役割を果たすことが肝要である。

日本のこのような役割の認識に立って、米國は國連安保理の常任理事国になりたいという日本の希望を支持し、また、米國が欧州諸国と何らかの話し合いを予定している場合には、日本とも、同様の協議を行

うことが、必須の重要性を帯ている (vitally important) と考えているのである。我々米国民は日米の経済関係及び物他の関係に於ける協調の維持は、ひとし太平洋地域のみならず世界にとって重要なものであるということに認識している。

田中総理： 私の考えを10点、まとめて申し上げたい。

第1点：日米両国の友好親善はますます深められるべし。第2点：戦後半世紀の日本の経済復興はアメリカの協力により達成されたものであり、これに感謝する。第3点：世界平和の維持、やがての経済の拡大均衡達成の爲には、米国の経済の拡大、ドル価値の安定が必要であり、これが日本の利益ともなる。この爲、日本も十分に協力する。第4点：日米間の貿易障^{大壁}ハス不均衡の是正の爲、最大の努力をする。アンハランスのまです。

友好関係は長期にわた^り維持できる。第5点：日米の
 正常な貿易関係維持、特にアンバランス是正の爲、常に
 協議、意見交換を行ない、理解を深めていく。第6点：
 世界平和維持の爲、米國が大きな努力を払っている事に
 敬意を表す。日本も経済部門で協力する。米國との関
 係を土台として、拡大ECとも連絡をとり、国際的によ
 り良き世界をつくら^る爲努力する。第7点：東南アジア
 韓国に対し、経済協力を拡大し、特にホスト・リ
 イタムの民生安定、経済復興の爲に相当量の援助
 計画を行なっていく。第8点：対中関係については、先
 程の大平外務大臣の発言で了解をうけた。第9点：
 世界情勢は変化しても日米の関係は不変である。第
 10点：日米両國間では常に意思の疎通をはかっ
 ていく。今回はハワイでお会いしているが、ニクソン大統領も
 来る選挙で再選されることは必至とみられており、再選

されたら、次はワシントンでお会いしたい。

ニブソン大統領：私の方から第11点、私が再選されなければならないと付け加えなければならないようにだ（笑声）。その為、選挙の大変な経験者であられる田中総理をお手本としたい。

〔この後、本日の会談の発表ぶりにつき、ジョーンズ次官と、牛場大使で打ち合せすることした。〕

日米首脳会談 (才=日会談)	
1972年9月1日 9:00 - 11:15	
於 クイーン・ホテル	
出席者 日本側	田中総理大臣、大平
	外務大臣 (途中参加)
	半場大使、宇川北子才
	二澤孝 (通訳)
米側	ニクソン大統領、ロジャース
	副議長 (途中参加)
	ギンジャー 補佐長
	ワイツァル (通訳)
ニクソン ^{大統領} 朝鮮問題につき話した。 朝鮮 朝	
鮮に関与する日米の利害は同一であると考え	
る。即ち、外国の支配を受けざるべきこと	
しつかりした韓国を維持することは、米国	
が日米安保に基く日本に対する防衛	

コミットメントを維持するためには、不可欠と

いうことである。米国内には駐韓米

軍を撤収すべきとの声があるが、自分は

かゝる主張に抵抗し強く考えである。

その際の強い論據としては (1) 韓国 の

独立保全を援助しなくてはならない (2)

日本防衛のための能力を確保するため

は ^{10/}韓国防衛を強化する必要がある の

2 点がある。

南北両鮮間の対話を開始して

では、米国はこれを緊密緩和への動き

とくに関心をもつて見守っている。しかし

~~新着の情報はあつた~~、余り大まか

- 期待をもたないことが肝要である。

安全保障以外の分野で南北両韓間には

いかに対話が行われようと、^{米国の} ~~韓国防衛~~ ^{はあつた}

防衛能力

~~体制~~を弱める款には行かない。南

北両韓関係は東西両独関係と似て

いるが、東西両独間で各種交流が

現に行われているにもかかわらず、米国は

NATOに対するコミットメントを堅持

している。欧州における兵力削減は

相互的な条件の下におこるのみ行う考え	
である。	
また、米国においては南北両鮮向の対	
話を歓迎はするものの、半国自ら北朝鮮	
にアプローチするのは時期尚早と考える。	
要するに同半島の事態が ^{決定的に} より大きく	
変うな限り現在の防衛体制は変え	
ないといふことである。	
総理	朝鮮に同様の大統領の夏解と
同意見があり、緊張緩和はまた客観面	
どより受けとつてはならない。自分は朝鮮	

人とのつき合いは長いが、北朝鮮は特別

のゆえにもっているものと思う。

日本においては北朝鮮との交流は人道的

様子を見守りつつあるに似ている。

分野、学術等での漸進的進める。

内題は韓国、農村の疲弊に

いることあり、農村を振興することにより

不平を除き北に近づきたいようにする

必要がある。日本においては対韓援助に

より韓国、農村、漁村の水準が向上し

北朝鮮のそれ以上になることを期待しており、

浦項製鉄所への援助により製鉄も

北朝鮮の水準となるようもつて行く方針を

日韓

ある。9月4日から関係会議に際して

も6名の関係を派遣し、韓国、香港

その合力をあげて

開発に協力する姿勢と新機軸を打ち出す。

ついでに在韓米軍もつておやりなおしお願ひをい

大統領 貴総理は自ら朝鮮人をよく知っている。

その他多くの他国

といふわけだが、日本は朝鮮については米国より

経験が多い。新しい日米関係における

日米間の意見交換は相互的なものになる

924

行われるだろう。米国が日本に助言する

という二つはよく、日本からも助言を得たい。

ここに貴総理や大平大臣が、米国には

は事情をある程度

8

日本は、~~好ましい重要な親しい地域である~~

日本は、今後ともやがては、安易な分野では、
積極的な協力したい。

~~十分貢献するつもりである。~~

大石氏 日本は今や junior partner なの

なく、full partner である。貴総理と

自分との話し合いは 形式ばった協議という

(discuss)

ではなく、率直な議論とこれ、内々での

含み (confidential base) 自由に

意見を交換したい。

その対象はアジアに限らぬ。先般

外遊から帰られたコナリーは、イランに

同じく 日本・イラン間に 石油南送の

プロジェクトがあり、これに 米国が協力する

可能性があると 報告しているが、この種

の案件は 結構あり 大いに 日本協力を

(3者協力 (Three-way deal) はよいである。)

迫めたい。 因みに 日本は 中東の石油

に ~~米国も~~ 依存し、西欧もまた 同様にあり、~~米国~~

~~も 米国は 中東の石油に 依存する~~

~~中東の石油の 日本が~~ イランの 石油

友好的な国が やつて行く (survive) よう

に、また 他国に 支配されることも ないように

最大の危険は、
支援する ことが必要である。

石油の価格引上げや 供給停止 等の過
りびた、イラク 等の 急進政権 ~~の急進的な~~ 動き

10

石油の価格引上げや 供給停止 等の過

には出る
かまうはるにせじ、これを防ぐため サウジアラビア、イラン などを
激を措置も ~~中東の情勢の動き~~ なし。 ~~もりたてねは~~

要するに日本の殺戮リは ~~地~~ もはや域的

なものなく 全世界的なものであるといふこと

である。

中近東の情勢の動きについては、キン

シンジャーもいて 日本に連絡をせしめるが、

日本にも情報があれば 知らせしてほしい。

キンシンジャー 石油については シベリア方面の話し

あり、具体的に提案もある。米国については

日本への協力も 可能ならしめる。メカース

を考える必要がある。

大蔵省 内々に申し立てるが キンシンジャー は 9月

11日から 13日まで ソ連へ赴き、先般の自分

の訪ソのフォローアップを行う。 その結果

は 中場大使を通じて 貴総理におしらせする。

9月5日 正午(ワシントン時間)に 発表するので、

そのまゝは 渡れたいが、西の慮がある。 本件

は 日本と英国にのみ 事前に 内報するもの

である。

総理 中近東のみならず、シベリア 東南アジア

等についても、日米間の連絡が 所要と思う。

また 経済面のみならず、政治外交面…	
	最終的には目的は同一
ついでに連絡を密にしたい。	樹立…
このプロセスから分岐すれば協力…	
インドシナおよび 戦争終了後の 民生復	
	用意がある。
興、その施策につき 協力する ことができた 。	
この台湾問題にふれたい。 日本に	
は台湾との経済的交流は 続けたら	
たいが、日台間の国交関係は 消滅せ	
るをせたいと考へる。 従って 米國が日本	
	友好
の立場を 理解して、日台間の 事業	
関係が できる限り 継続されるよう 支援	
	経済交流は現狀通りつづけるし
するよう 願う。	日本には 台湾

日本は ~~有する~~ 利益は守るべきであるが

フランス、カナダ等の例からみれば、台湾は

国交関係は維持すべきに考慮すべきである。

月の中心は、台湾に對する友好の気持

に変わりはないが、^{親善} 従来の日台関係が、
実際には、日・台・米

の三國関係として運用をせざるを得ない。

米国の名義で

~~台湾~~ 国交関係を有する ^{二つの国が敵対関係にある} 米国の支

援を求めたいのである。

大統領 このゲームは3人がプレーする

を意味すると思うが、果して台湾がゲーム

に参加するのだろうか。

総理 台湾は必ず参加すると思う。

大統領 米国には 台湾が 自立している

経済単位として 生き残る 行くことに 強い

関心がある。 台湾については 日本と同様

経済関係も 維持する ことに 関心がある

かもしれない (might look with favour)

~~それと関係する~~ したがって、他方 台湾

が 貴総理と 訪中を 神主様に 注釈

により、今後の 台湾の 反応が はずれ

予見がないものであることは 平直に 申上

げます。 台湾の 反応の 関心 米

国々を いうことは 多くなく、 かつ 蔣

（この自己の所信を時々の金力をついて来ん）

総統は高金に誇り高人物で、
（かつ高金に）

同総統を説得するのは容易な業がある。

米國と中国は台湾の経済的性格の

国際機関に留まりたいと重要視している。

日本は北京と外交関係をもち、台湾とは全

済関係を維持し、それは台湾の経済的

国際機関に議席を維持に行き

というのはデタラメな誤りである。

総理 東西両派に異なり、北京と台湾の

中国の唯一正統の政府を主張している。

が問題の根源である。日本と中国は

態度を決めようとしているかと思われる。

大統領 自分も蒋介石、周恩来と話合っている。

~~大統領~~
 中々心があるが、~~相違~~異なるこの二人が、中国は

一つのことと見なしては、共通の考え方を求めている。
 問題はどちらの側面か、と言っている。

総理 ディエゴス問題、及び 貴大統領の

発言に伺っている。

日本の計画

キッシンジャー

←別に 本年中の和平の可能性

大統領が言及したこの報道がなされている。これは

は事実ではあるが、この種報道が流れると

北越との交渉に障害となり 迷惑になる。

本会談の ディエゴス問題について 討議の

由春は 浅い所から 梅鮠慮 乾いぬ。

総理 | 大平正房 | 新聞
自民党が勝利した。日本の新

金にいたる。

~~道内信託~~ ~~金にいたる~~ 事業の。 日本

の新南は往々にて創作記事を書く。

勿論 秘密の言ふことはあるかも知れない。

支障の 左来才老障かありと思われり
例に 支障 ~~ありありありあり~~ 敢て伺ひ

ちくちく よい。

大志大望 米屋は 公式、バリ会館の他

キツレンジャー - 1250 秘密の文庫全集, 2冊あり

交渉内容の实质は 外部に流うところという

了解が北進の向に存在する

自分も、物を知るにあり

25日 8日 平和解決の面
1月 5月 米側

完全

の提案を明らかにした。即ち 停戦、米軍の完全

撤収、捕虜解放、国際管理下の選挙を内

容として求めているが、~~その~~ 問題は 1点のみ

である。北越は米国の 彼等と一緒に 南越政府を

し、南越に にありつた 転覆も 共産政権 ~~樹立を要求する~~ ことを求

めているに過ぎない。しかし 米国は 絶対にこれ

には 応じない。その 理由 南北をすれば 1700万

の南越人民を大量殺戮の 危険にさらすこと

が 最も 大切な理由。米国が南越の同盟政府をすれば、日本経済は 深刻

となる。いずれの国も 米国に 信頼を置いている

にあり、一ヶ所の紛争を 争い続けると 何処まで 同様に なる。

~~その~~ 従って 自分としては 一歩 譲る

(to go ^{an} extra-mile) 北越の戦後、至

南復興の支援をコミットする用意を示しては

いるが、南越に共産政権を強制することは

絶対にできず、この態度を堅持している。

米国外交の大原則は 同盟国と絶対

うやうやしい (never desert its ally) と

いうことあり、日本、西欧、イスラエル等すべて

（（ベトナム）米国の約束を破ることは、如何なる友人、米国の信頼を得る

の同盟国にも原則を適用する。自分

毛沢東、ブルジョアと露談の際、米国の

中共、ソ連とも関係改善したいと考えては

（このために）
いるが、公然と公言は秘密裡に 同盟国

にこの取引をすることがないことを明言した。

彼らはこの案に同意はしなかったものの、自分の

考え方は了解に要す。新しい友人を

得るために古い友人を見捨てることは……うまい

おかしな立場をとることはむしろ先づ

ブレグジットの意思をなさうと所以ではあるか

と思う。現に中共、フ連は無条件に

(categorically) 彼らと同盟国を支持し

ているわけだから。

新ソにこれ申せば、総じて建設

的の会談を行なうと思つてゐる。準備

管理、宇宙等の分野に協力も行うこと
合意した。 ~~しかし重要なのは、中ソ~~
~~が和解することは、各、一セグメント~~
~~である。~~
両国は仲がよい
中ソの意見は、中ソとくに日本。
経済大国として と投資と
を高く評価し、これに日本のノーハラを
抱かす
抱かしているところ。日本は強い立場から
ある。預かっている。
ギツシシジャー スのとおりにある。ソ連は
シベリア開発のための日本の投資を求め
ている。中共は日本がアジアにおいて

支配的地位を獲得すること一面危機

したが、他方から日本の実力を尊敬という。

なかうとも 中米が急速に 対日接近をうか

つたのがある。

大統領 中ソ両国とも 口には出さないが、

(の基盤) 大國にはなり得ない
経済力をくみは 軍事的力を行使しない

自分様には

これと存念を承知している。 日本が 自衛力

以上の軍事力を保存する方針を 矢張り

は世界各国が高く尊敬し、彼等は日本が

はいるが 日本が 経済力 ~~の~~ (経済力

外の分野にも ~~日本~~ 潜在力があること

を承知している。 日本が 軍事力を強化

大統領、現時点では後者である。中共が

台湾と国交の再開には 外交関係も樹立する

ことをいつ以上 考える。… 従って 公式の

関係をもつことなく、事実上 建設的な関

係をもちうる方法を探求している。このためには

パリジの接触、チャンネルが 既に存在し、

また 先般の キンソンジャー 訪中の際も方法がある。

キンソンジャーが再び北京へ赴くことがあっても

あろうが、黄総理の訪中系にはない。

(注)

キンソンジャーが日本が中共と 国交関係を樹

立する限り、内政不干渉を強く主張

送附すべきである。

日ソ交渉に於ける見通し如何。

総理

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

大統欽

[Redacted]

[Redacted]

総理
(大平大臣、ロバース議長参加)
大蔵省 並行して二つの会談は おおむね 同じ
内閣が上り下りしているものと思う。 田中総理は
の間に上り下りしているのは コミュニケーション
経済内閣のパッケージであるが、どうなっているか。
ロバース すべて合意する コミュニケーションは 報道
内閣府にアドヴァンスした。 起草にあたる

両国の関係者の労をねぎらう。

大統領 今次会談の建設的な成果が与えら

れたことを喜ぶ。今後日米間ではあうやう

レベル / かつ /
~~方途~~の対話を ~~経~~て行くべきであり、首

腦会談の他、周際レベル、スウェーデンレベル

regularly

で会合し、かつ問題の解決するため

という方向の問題を予見するために話合

うべきとすべきである。

内閣から御用・薩摩

総理 賛成である。(懸談、協議、~~連絡~~
~~連絡~~)

など接触を密にしたい。この意味で

本年南進。困難な日米経済貿易合同条

は 2年分をまとめ 是非明年 開催したい。

頻繁に

その首脳会を2年 1回にします。随時

アジアへの投資、中東

開催したい。またシベリア開発といった 具体的

には車中、連絡路に協力も求める。

問題について、協議を進める。

軽井沢で 年、補佐官に送られるが、

日米経済問題については 毎月とも事務

交渉と並行し、輸出統計と材料に

当局が 協議するにやり、問題がたま

にたまる。

その重大事、なすゆえに 早目に意見

を調整する必要がある。

の問題

大統領 日米間のみならず、シベリア、イラン

等の例にもみられるような 第三国 における

協力にたつても都合いい。 二種協力は

必ずしも 日米の協同^{出資}~~資本~~ (partnership)

ひきつらなく、提携事業 (joint

enterprise) の可能性も探求できる。

ある場合には米国、ある場合には日本が イニシア

チヴェンツ プロジェクトを開発 していくべき

であり、二種の協力は 政治的にもよいこと

だと思ふ。

また 国際機関に対して 日米がともに

目下の具体的なプロジェクトを念頭にまわし

協力する ことを考えたい。 二つのように 自由

の最も繁栄は

陣営の二国間の新しい展望を開く

(協力分野も発見し)

この
文は
正しい
か、

行きたい。総理、示唆を歓迎する。

総理 賛成である。具体的プロゼントとして

(伊相後継一任の相、充分連絡する。)

見せる ~~考え~~。米、關東島沖の石油、

ベトナムの石油、韓国沖の大連棚石油等。

や、先ほど話題となったイランの LPG

等が、それであり、具体的に、は、追って連

絡をとることになる。

口舌官 宇宙協力に満足すべき進展を

示している。

大平大臣 文化、教育、環境、公害等。

広一分野で、日米間の交流を深めたい。

を日本が独自に決定することはない。

34

~~外~~ 外交関係設立後、平和条

約乃至友好条約、航空、通商、漁業の

どの実務協定も 時間上からして 逐次 締

結していくこととなる。 現在においては、

北京側 ^{から} ~~の~~ 二つような日本の方針に同意

しているとの反意は示していない。田中清の外交関係

~~を急いで利断する理由はない。~~
~~係設立の必要がなければならぬと予想している。~~

^{総理が}

最も ^{心配} 問題としていえるのは 台湾の

善後措置である。台湾の外交関係は

シフトするが、その他は現状維持のため最大努力を揮う。

~~消滅させる結果には~~ 人の往来、貿易、

投資、関税、特恵の適用、コンタクト・ポイント

の設置等の問題が生じるが、日本としては

できる限りの努力を払うつもりであるが、

台湾の反応は必ずしもよくない。

石井長三 台湾問題についてのフォーミュレーション

について、カナダ、イタリアはデイト方式を

とり、米国はチャレンジしなさい方式をセツル

が、日本はオランダ方式と似た方式を考へ

ておられるようである。

大平正臣 日本は台湾の帰属につき板利

を放棄しない。従って台湾の将来は

サレフランスコ平和条約を結んない

（連合国の手中にあるが、連合国は何の

決定も行っていない。）、この状況の下において

日本は台湾を中共の領土と認める立場にはない。

しかし北京の「台湾は中国の不可分の一部」

との主張に対しては、これを理解し尊重す

ることはできるが、これ以上には出うせない。

即ち オランダと同様の方式であり、^(連合国中) 英 (acknowledge)

^(take note)

加、米などの諸国の表現と比較
(not challenge)

した場合、最も進んだ表現をとるか、

これが限界ということになる。現報はこれ^{ではダメ。}~~中~~。

大綱領 中共へ出発する前に 十分睡眠を

とておかしなことを提めする。中国人

は 表現、文意を重視し、徹夜交渉、

此辭之類、連中ニ有。

共整理

英語と中國語と 若干果、の辨

秋天下し余地の残す善類がおりるか

日中尚ほ同文の如く 困難なる。しかし

徹夜之日考三試等。

キッシージャー

中共は又こ フェアであるために

一言申上げたい。中共は文革は

田中が ~~先を告げる~~。 けれど ジェンキンス 部

((國防省及び共産黨部))

長が 帰国後 検討したところによると 英文

と華文で ニュースの 巻の あり あり

の部分については、 L_3 米周に有利な文字

を用いていてその点である。 この意味

で中央のやり方はフェアである。

大體 中国人は hard bargainer で

あるが、一度取引が成立すると 良心

(英文と中国語の間に相違がある場合)

的かつ正直である。 この点 若干

~~英中~~

は ~~彼ら~~

他国に異なる。(誤解) (おこる)

と考えるため、話し合いに時間がかかる。

口舌 通訳の問題である。 半同通訳

官に対し 中央は 革命前の中国語を

話していることだ。

(3)

~~米日~~ (合談議事録)

昭和48年7月31日

田中総理とニクソン大統領との会談 (先方 キンダー

補佐官、山加方安川大使同席。 米側 ウィケル、日本側

安川通訳) の概要次のとおり。 (なお、合談時

間は 午前11時から 午後1時^後まで 2時間であった。)

総理： (1年振りの貴大統領の招請に對し) お目にかかれ

たことを感謝す。 お元気な様子か何れと考える。

まず 天皇陛下からのメッセージをお伝えしたい。

皇皇として、日米兩國の友好関係増進のために貢献

したいとお考えであり、両陛下に 昨年御招待を受

けながら 宮中行事との関連において 訪米できず残念

なことは遺憾であるが、明年是非訪米したいとのこと

あった。 我々、日本政府としては、特に貴大統領御夫妻

が、御都合の良い時期に、本年あるいは明年いつでも

御訪日により、日米国民全層として歓迎申し上げ

げたい旨を申し述べたい。

大統領 1953 両陛下には 2度、つまり 1953年と先般の

アンカレッジお立ち寄りの際にお目にかかり極めて良い印

象を抱えていた。双方に都合がよい時期に是

非共 御訪米の実現を^{期待し}た。日程の調整とい

うのは極めて困難なものであることは自分も十分承

知しており、特に貴総理或いは自分のV-L-Lでの責

任ある立場での日程確定には種々問題も伴うの

で、原則以上訪日、訪米を合意した上で日程の調

整をばかりた。日程取りについてはこれに^外漏

れると、双方にとり極めて embarrassing な事態となるので、

相互訪米の原則のみを確定し、今後 オフィシャル・チャ

ネルではなく、キャシンジャーと貴総理の代表との間

で詰めることとした。

自分としては 中口或いはソ連を訪米に就いてあるが、

自分の訪日について、これらの訪米より軽く取扱。なといふ事がある。

批判を招かぬよう十分時間をかけて詳細な計画

を策定したいと考える。

総理 ^{（答）} 昨年11月にお目にかかた際は、日米貿易不均衡の

題をめぐって種々御迷惑をおかけした。1年間のうちに

努力の結果、貴大統領と楽な気分でお会いできる

状況にあることは喜ばしい。その際、兩三年の不均

衡是正をはかりたい旨申し上げたが、1年間でこれを

達成することゝできた。日本側通商統計をとれば、

5月には日本側の対米入超 11 百万ドル、6月は 43 百

万ドルの入超で、1~6月の数字では（総理は

自分のメモを示しながら数字を説明）御覧のよう

に昨年の 1、194 百万ドルの対米出超に対し、本年同期

は 124 百万ドルの出超にとどまり、出超規模は約

10分の1と少い。日本の対米輸出が 4% の伸びに ^比 ~~対~~

し米口への輸入は 49% も伸びており、数字からみ

ると対米輸出 43 億ドル、輸入 42 億ドルと均

衡にきている。この内、輸出を抑え、輸入を増進す

この以前を少し判戦し過ぎた結果、わが国において

も、物価問題を生じている次第である。

大統領

経済規模の大きい工業国についての問題は、同じ

不均衡でも極めて大きな数字と成ることであって、不

均衡規模の世界の90%を占める小国のGNP総

額にも比肩する規模に達することである。

極めて重要な点として申し述べることは、白米
(destined to competition)

両国は先進工業国として必然的に競争関係に立つこと

である。お互いに責任ある指導者として、この競
(belligerent)

争関係から加味 (bitter) 或いは敵意を含んだ

対立関係と成らないように処置することであると思う。

白米両国は競争しなからず、その関係を調整し、友好

関係を築くための形での対処できると確信する。

ご存知の如く、日米双方のビジネスマンは hard,
政治

tough, competitive である。日米双方の指導
家として、

この競争精神をうまく取り込んで日米両国の

政治関係を築くための形できると思う。貴総理はコソ

ヒューマン・パワー・フル・ソーサー との お互い がある どうか
貴總理はこれに力を入れて 豊饒の (brain) の 所有者 である。

強引にすれば 元い知ももって 總理とやられたものと思う。

で 經濟面での 危機・対立 といったものは 我々二人が

よく 処理 に行けるものと思う。

最近の 大きな問題 としては 食糧 或いは大豆をめぐ

る問題 があるが、最近の 經濟方針演説 において 私は

輸出規制を 政策 として 排除する旨を 明確に した。輸出

規制を行なって 食糧価格の上昇を止め得れば 内政

策 としては 極めて 本筋を 突いて いる であろうが、私は その

方針 に行き着くは 日本と他の国との 関係 である。外交政策

としては disastrous と 考へて、上述のような 決定 を行なつた

ものである。昨年の 今頃は 日本にも 多く ^{農産品を} 買付けてほしいと

要望 していたと ても あり、当然の 決定 であつた と思つて いる。

日本は 物理的に 島国 であり、米は 大陸 には 云々

広義 には やはり 島 であるが、19世紀の 英 島国 と

12 買まれば かく かく 同い意味で、いかに する 口も 今日では

獨立 には 生存 1. 得 たい と思ふ。 敵 敵 式 の 抱 抱 っ 々

地へなとあり、日米両口は今日世界的な意味での関税を

有てあり、日本自身も米口とトヨタを輸入される以上

に東南アジア、中近東、或いはヨーロッパとの関係で関

心かおありかと思う。

可
総理 X ✓ 同感である。日本は本年 750 億から 800 億

ドルの貿易規模に達すると予測されているが、この 25

億は 30% は対米貿易である。海外で活躍する米口企

業からの輸入はさらに 10% を占めるので、日米間の通商

関係は日本の貿易総量の 4 割を越えるウェイトを持つ

ものである。この意味で、米口内にも悪い影響が及ぶ

いように貿易拡大を指向して、双方の互恵的利益に

つたかき形で意思の疎通を^{はか}かりながら、双方にと

て喜ばれるように合理的な関係に立ちたいと思っている。

総領: 貿易にも米口企業からよく^私~~私~~に陳情がある問題は日

本の投資市場の開放、米口と同様の平等な機会の提供

である。(総理が発言されようとするのを手で制止して) 資

本の自由化が必ずしも^私~~私~~も知っている。しかし米口

の企業は余りうるさく言うのを申し上げなければある。(笑)

佐々木) ^私~~佐々木~~は文句を云ねたので日本の総理大臣に直

接云ってほしいと云っているらしいのである。

総理: 5月1日付で 100% 資本自由化に踏み切っている。

一部例外はあるが日本の投資市場は開放されている。

大統領: 49% までの投資という方針は変更されたのか。(総

理) 再び 100% 自由化に踏み切っている旨を述べられ

たところ) 経済問題は日米双方の適当代表者間で論

議してもらうこととして、貴総理とは世界情勢について論

議することと致したい。

私は正代の日本の総理とお話した。主として二

口内の問題についての論議が多かった。本日は全般的な

世界政策についてお話ししたい。日本は核戦力を御存

知のよりな理由でお持ちになられている訳であるが世界的

に大口であり、その巨大な経済的生産力からして核保

有口となることは不可避的だとの見方がある。中口、小口

あるいはヨーロッパの指導者と話をすると、例外なく日本の

経済力のみならず、その国力に対して極めて高い評価

(enormous respect) が行なわれている。日本は近

く、世界中の経済大国となり、ハーマン・カーンが正し

く、今世紀末迄には世界第1の経済大国になると

云われているが、日本は一体世界においていかなる役

割を果とうとしているのか。東南アジア、ヨーロッパとの関

係、或いはソ連との関係を何を考えておられるのかを伺

うたい。結論的には、政治的に極めてデリケートな合

野に立入ることにはならず、率直に申し上げて日本の政策は

いまだ現在の役割 (role) を快く思わない向きもある。

米口に限らず、貴口においても孤立主義的思想があること

承知するが、日本は経済大国であり、政治的

な小人 (economic giant, political pygmy) であることは、

自然の法則に反する (contrary to the laws

of nature) ふうに思われる。経済大国であるにもかかわらず、政治

的 pygmy にはあり得ないので、日本の世界における

役割についてどう考えられるのか。今やその切をとり上

けりへき時期に来ていふと思う。条約をどうするか

一口の安全保障をどうするかといった問題ではなく、将来の

展望として貴総理は日本の将来歩むべき^道について

どうお考えか。か 中核 (heart of the question)

と思う。

総理： 米口の援助と協力もあり、過去 40 年 1 世紀に

日本としては現在のところまで来たことかできて、その御

厚意は日本国民すべては評価している。日本は自由主

義諸口の一員として、米口と協力に政策を押し進め

ることを基本としている。憲法上の制約もあり核は

持たない訳であるが、日本は国際社会の一員として技

術、経済その他の分野で積極的に世界平和のため

に寄与貢献したい考えである。国際機関の育成、通

貨、流動性の問題、新国際ラウンドの遂行、後進口

援助等積極的に協力をする考えであり、特にエネ

ルギーの問題、石油資源、濃縮ウランの確保につ

ては、米口との協力を中心として考えを考へたい。唯

日本は核は保有せず。軍事面では憲法上の制約もあるの
で、中ロ、ソ連等大ロとの関係においては米ロと密接に
協調をはかりたい。然しこれらの諸ロとの関係におい
て日本の立場のみから直接に交渉、米ロ或いは自由主
義諸ロの不利益につけ加えることは行なわれない考えである。
いざいざとせよ、日露社会における役割を責任をもって遂
行して、米ロと十分を合意、意見の疎通をはから
なければならぬ。

日米間の意見の疎通との関係においては、米ロの一部に
は十分日本を理解している面もあるとされている。日本は
米ロをよりよく理解していると思う。日本の一部においても
米ロを理解しているものがあるが、これは政治的立場を異にし
意識的にどういふ動きを見せようとしているのであって、日露全体とし
ては理解していると思う。米ロは日土も広大であり、ヨー
ロッパとの関係は深いから日本はよく知られているから、日露
交流基金を拡大する過程で日米間の交流、日本への招待
をはかっている。日露交流基金1億1千万ドルの約半

今は既に米日関係改善である。これに加えて米日の大学
に 1 千万ドルの基金を供与する考えであり、東部、中部、西
部など米日各地に 10 所程度の大学講座を指定して、
日米理解の増進に努むたい。大学の指定については
米側の希望も参考としたい。

いふわけでは、ソ連、中国その他の国との政策を推進
するに当たっては、その過程において詳細を米側に通報
し、政策決定前に米日の考え方をよく話し合いたいと
考えている。この関連で、安川大使は日本のみならず米側
の見解をも代表にもらつたりするつもりでお願ひしたい。

私は 10 月には訪ソを予定し、秋、9 月末から 10 月には
じめにかけて、英、仏、西独 などにヨーロッパの訪内を予定
している。最近 プレジネツ書記長が貴大統領を訪
ねたこと、これに同じ、貴大統領の見解を伺いたい。

大統領様、
貴総理の世界観をお伺ひできて幸ひである。私
としては、今提起されたような諸問題についてもう少し
具体的には踏み込みたいと考える。換言すれば、貴総理

✓ の見解では、70Vシネマ 或いは周恩来の貿易或

いは政治問題に70Vの最大関心事は何であるとお考

えか。彼等は世界で何を追求しようとしているので

あろうか。或いは相互の関係について何を求めている

とお考えか。

24
総理 ✓ 中口について、まず軍事面ではソ連との口境問題

のみが関心事であると考え。私は、ソ連から口境防

争を巻き起すことにあるとしても、中口側は口境における軍

事力の整備が精一杯で自分から仕掛ける余裕はな

いと考え。我々、中口が一番腐心しているのは口内

経済であって、周恩来は私に対して数字をあげて現

在の日本のGNPの40%に達するのは今世紀一杯は

かかることを述べている。口内安定上全力を挙げ、中ソ口

境で紛争を起す意見と余裕もないという説明は、

これは事実と考えてよいと思う。中口の北越援助は

ホー・チ・ミンとの長い友情の前提にあるもので、北越が

今後他口と争いを起すための援助は積極的には考えて

はたしと解している。

大統領： 途中で恐縮だが、中口は侵略的意図 (aggressive intention) を有せず、口境防衛と口内安全に専心するとの考えと解に よるしいか。

総理： ソ連との口境問題、インド洋におけるソ連海軍のプレゼンスが中口の対外的関心であって、中口が口境を越えて、他口にこれを構えるための援助をするとは見ていない。北鮮に中口が援助を行おう場合、日本としては脅威と見らるを得る旨を述べたのに対し、周思来は軍事援助の意向はたしとており、台湾についても武力解放はたしとしているので、侵略的口家であると思える理由はたしと考える。

大統領： 次の世代において、その向上中口の獲得する能力は何に拘うか、日本に対して脅威とたしたしとお考えか。

総理： 周思来に対して、私は、日本は核兵器は持たない。昔の村に侵略もした。科学的或いは技術的水準から言えば核武装も可能かあるのか。一切核は

中口側は既に決めている。中口が政策的に日本と異なる

限り日本から、ことを構える危険性は一切ない旨を明言し

てある。これに対し、周恩来は、侵略上は対応する

が、中口側から紛争を起す意思はない、そのほか余力

があれば生活水準の向上にまわしたいといっており、現在の

ところ、中ソ口境では精力的に対処しようが、中口、ソ

連の一体となるような予測し得ない如き事態が生じ

ない限り、脅威とは感じ得ないとしている。

大統領：ソ連についてはどうか考える。訪ソされる前から、

中口或いは日本に対する態度をどう評価しておられるか。

総理：現時点では、ソ連は米口から 2 千万トンの小麦の

買付けを必要とするように、食糧の不足があり、農業生産も

上っていない。口民の勤労意欲も落ちていると見られるの

で、口内には困難な事態にあると考える。（しかしその強

大に軍事力は大きな脅威であり、今日でも東京急行と称して

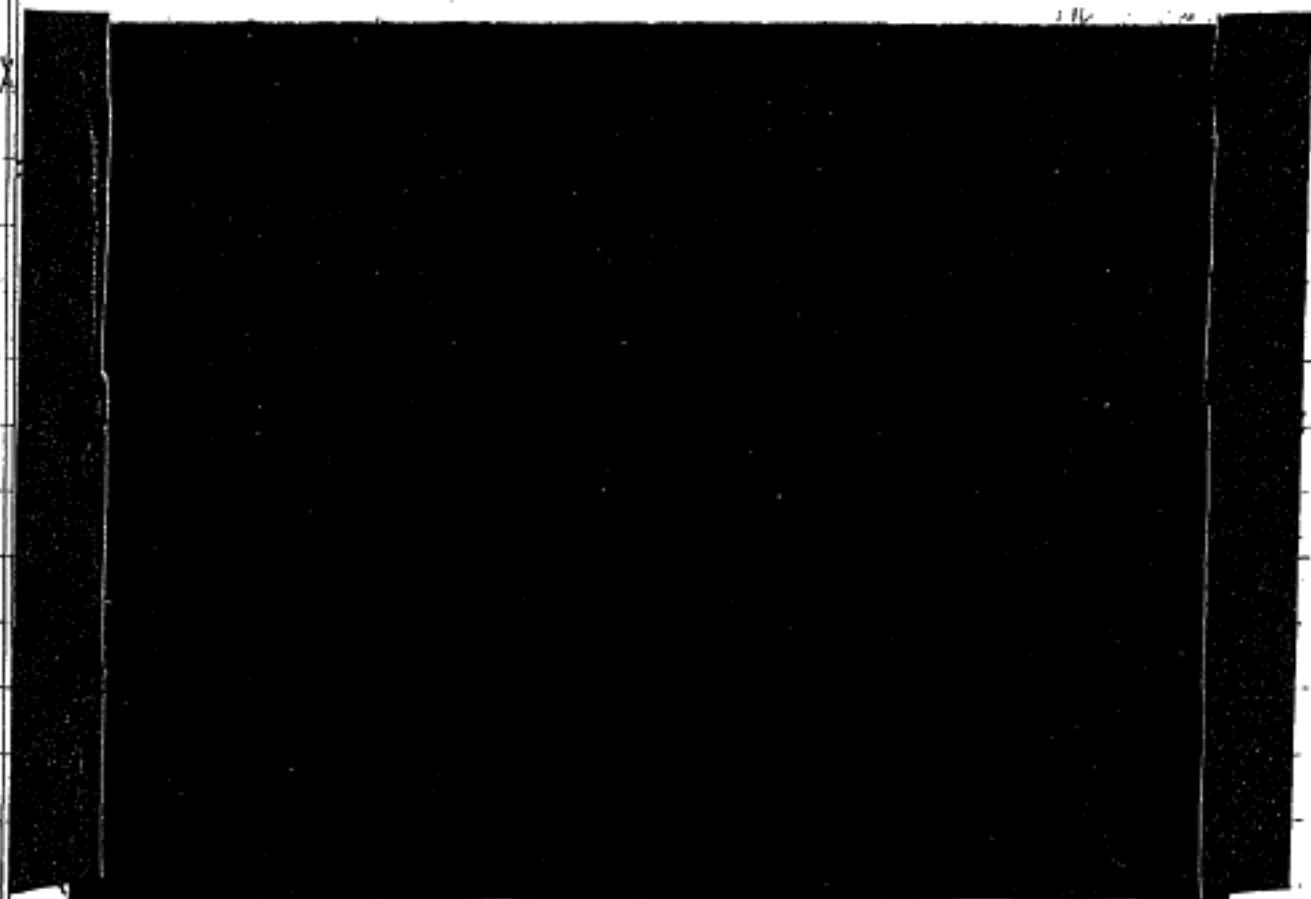
毎日のようにソ連機が飛来している。ソ連の軍事力は未だ、

日本同様、

中口にとっても脅威であろう。

日ソ間には、加えて平和条約も締結し得る状態であり、その前提には、四つの島の問題を解決しなければならぬという問題がある。

可
大陸領



フクレシネフ訪米について簡単に申し上げれば、小麦取引を含む両国関係の全般をレビューする一歩、中近東、中口或いは日本などについても意見を交換した。コミュニケにあるように「フ」書記長は、米口及びその他の諸口との平和共存を追求するとの態度を表明した。今日結ばれた核戦争防止協定に関連して、双方の同盟は、また、米口を通じて、武力の行使は、武力に基

る。威嚇は協定違反であるとの条項を米側が固

執して書き込んだが、御承知の如くソ連の当初の

立場は米ソ相互間の不使用に限るというものであつた。

これでは日米安保条約は無意味となり、米国の NATO

に対するコミットメントも同様となるので、双方の同盟国

(これは主として米国の同盟国を意味する)との文言を入

れさせたものである。

一般論として、デレサネはソ連政治局を米口との

対立回避路線 (non-confrontation line) の誘導は

うと試みていたようであり、過去においてソ連の政策を

特徴づけた海外での冒険 (foreign adventurism) を

減少させること^{最も}から、ソ連の利益に沿う (Soviet interest

is best served by a policy of less foreign

adventurism which previously characterized the

Soviet policy) との判断と見受けられた。ソ連はま

た、核能力においては米口と対等であるとの事実を強

く意識 (keenly aware) している。もっとも米口は伊

の分野ではなお対ソ関係にまわっている。貿易については

それ自体としては (as an end in itself) 関心をたも

うに見受けられる。ソ連の動機 (motive) は不

詳であるが、現在平和共存のソ連の利益を考えると

その印象は強い。私としてはソ連が将来何

を利益と感じ、如何にその力を使うかについては予測

し難い。ソ連の行き方を批判しようとのつもりはないが

ソ連の本質の立場にある人間が何を考えるか、いろいろ推

測してみなければよく判らねえと考えるからである。

中口については海外の冒険 (foreign venture) に

関心をたもっている。事実口内安定に努めるの

が精一杯であって、予見できる将来については海外の冒

険に関心をたもつては明確であると自分も考える。

一方、ソ連については、同様の政策を表明しただけで

その巨大な軍事力と経済力をどう使おうとしているのか、且

つ、共産圏のリーダーとして中口その他の関係をどうしよう

としているのか、いろいろ考えてみた (trial to road

between the lines) が明瞭でない。

(一) 米日関係では

最後に、日本にとって重要なと考えるのは、中ロの方

針から安保条約を廃止し、米ロとの関係ではその同盟

条約を廃止する。この伝統的共産主義ロの方針をとって
いなか、その後公明には同じ標榜をしようとしているのか。

あり、~~確かに米日関係は~~ 現在もそうであるが、

事実上は 弾力的となっているとある。そこ、^{ソ連}中ロ

を隣国とする日本のため裸であって、いつまでも経済的に

は大口。政治軍事的には pygmy になる場合は、領

略的意図を有するロとして、うんた果実の如き存在で

あることである。この関連で、日米間の友好~~関係~~維持

経済且つ安全保障面での関係を維持することから、

フランスを保つ上でも重要と考える。米ロにはソ連及

び中ロに対して even handed 形式で双方との平和

的関係を求めたいと思っている。中ソは相互にとって敵対

関係を意味することから、米ロとの友好関係を維持すると

考える。アレシネフも我々からすると同様、米ロ間の出

方を注意深く冷戦態に観察しながら、できれば友好

自保を保ちたいと考えていると思うが、米ソ双方いずれも

相手に対して不当に^有優利な地位に立ち得たことは双方の意識にいうところである。

欧州は、私から見るとここには裕福とたゞ肥満

にその安全保障に関心を薄めていると思う。これは

謂ゆるインテリゲンチ指導層と称される連中のこととて

ス或いは、~~は~~ ホンコロドー等の指導者のことを意味するもの

ではない。いざいざ北米傾向としては、米ソ間の対話

が盛んになり、世界には平和は増大している、NATO

を解体せよ、日米安保は何故必要かといった空気が一般

に強くなっており、これは米口及び日本についても同様

と思う。これは、~~は~~ 要わば新しい孤立主義があらた

防衛のための負担を小さくする動機にかかると平和その

方が望ましいとする態度である。かゝる態度が一般化

すれば、NATO からの撤兵、或いは日本が支持した

安保のとり直し等、米口議会は強硬な説得を要せし

て簡便にやめたいと云ふことになり

⌘ 政理を現実を鏡とに十分お判りの上に、70Vシ

ネ7は平和共存路線の現存はソ連の利益と本多考

えていると思われ、
「7」との会談を通じてソ連は

武力の行使 或いは威嚇等 平和以外の方策を追求す

と信ずる理由はないと思われ、
しかし、ソ連はすでに

進んでおり、高圧に迫り、軍事計画を精力的に押し進

めており、これは協定の対象外でもあるのでソ連の追求

する権利があることは認めざるを得ない。

以上を背景として、今から5年先の世の中を想定にみれば、

70Vでは ~~韓米安保条約を破棄し、米軍撤退を要求~~ 日米双才

に支持しなければ日米安保条約は廃止され、米口議会

の圧力で韓国から米軍が完全に撤兵になるといふ事態が

出現し、
ヨーロッパにおいては、各国がそれぞれの道を歩

んで自由諸国を形成していく偉大な原則の形が

新たに再確認することの結果、米軍の撤退、

NATOの解体といった事態もあり得るであろう。そのように

世界を描いてみると、米口はソ連よりも軍事的に大中に弱

94. 化 12.43 元 共 331. 欧洲 经济 综合 性 障 成 12.4

政恰或曰法 安全保障面 乙は 対立を 繰り 日本は 日本
(stand naked)

② 経済大国であるから軍事的能力は高いという状況
(中) 両国にとって *tempting* 取立場があるから: ① ② ③

況であらう。米口の大学、例えはハーバードに例をと

これは教授陣の9割、学生の6割はそのような世界

像左支辨1203と思われる。121、其れは快12安全に

世の中とは云々だがある。

可総理A¹⁹ 貴大統領の意見はよく判る。確かに御指摘のま

20 倾向也有如此 抽象的作理论 认为平和作保证

水垢 $m=2$ は お \rightarrow L や 3 とお \rightarrow 2 である。 日本 2 には 米 0 と

協力して、アジヤの平和を求めたいと考える。 ~~ユ-kyu~~ ヌ-kyu △°

では 直接ソ連と口境を接している国 フランス 北には

例 自由环云云方在 1 步之后。分割 σ 的 τ 子 $\tau \in \Sigma$ 按 σ

は、即ち 日本と近い考え方と云う。 ソ連は最近の独

ソ条約もあつて、自国の経済南進のため、西独に働きかけ

を行おうであろうか。独創は簡単に決まらずとも思

う。口車の機能の拡大を望ましいという平和学者の論

を判断するべきではない。口運か、ソ連を抑える機構となり

得子とは考えられぬ。自由世界のリーダーとしての米口は

主軸として自由世界の^国結協力することから、アランズの崩れ

るのを防ぎ、平和を保つ所以と考える。その意味にお

いて、私は キンゼー・神佐宇の唱えた構想に関心

があり、わが口としても、友合の協力を考えたいと思う。

大統領： 日本は、新大西洋同盟はあり得ぬ。

総理： 米口を中核として、一方は NATO 諸口、我々日本との
協力の重要と思う。

大統領： 寸時程申し上げたように、世の中は、私が欲した事
態であり、日米両口首脳は、今後直面せねばを得ぬ。

由起として、これを描いたまじりあって、我々としては正しい

ことは、勇気をもって押し進めねばならぬ。大々善意

であつても、^ま折^まはん^ま折^ま (soft-headed) 連中が

NATO の解^收、或いは米軍の撤^收退を唱えても、私は

あく迄、力^カは堅持し続けねばならぬと思う。

世界に侵略的勢力 (predatory powers) が再び

はる、するのには 絶好に 防止せねばならないと考えるからで
ある。

総理： キンシャ構想 或いは 新大西洋憲章といった
考え方は、私は 米と NATO 諸国 或いは 日本が 非中
国との関係的問題（^で）
の話し合いの場を作ることからできれば望ましく、米と中
国といふ 自由主義諸国に いわゆる 中東連といった形で
口隙問題を討議する機会を提供するもの^で ~~だ~~ ^{である}と思っ
ている。 且つ、それを構成する方策論は何か
か お考えか。

大統領： その点は 明日 お話しした。 キンシャ補佐官の
適当なレベルで もう少し 詰めておくことを希望する。

キンシャ： 昨日、大統領とお話しした次第である。 欧州諸
国と 協定を 結んでいる間に、日本が 宣言に 盛り込む
べき、或いは 盛り込みたいと考える 考えを 知らせていたか
ければ 有益と思う。 実質的内容に 関する日本側の考
え方を 承知しておくことは、欧州との 話し合いを進める上で
も 便宜 と思う。

日米交渉、大平外務大臣とニクソン大統領の会談

（水2回）

日米交渉の会談記録

（会談録）

昭和48年8月1日

田中総理御訪米のオマケ会談とに行かれた田中

総理、大平外務大臣とニクソン大統領、ロジャース国務長

官との会談（先方キッシンジャー補佐官、インカボル駐

日大使、中村安川大使、鶴見外務審議官、大河原

アフリカ局長同席。米側 ^{通訳} ウェッセル、日本側 ^{通訳} 幸川、通訳）

の概要次のとおり。 ^{時間} 本会談は 午前9時45分

から 11時15分までの1時間半 ~~会談~~ であつた。

大統領 ^{12時} 日米間の貿易収支不均衡の改善は、大変な成果であ

り、²⁰ 今からアフリカ・シエラ・レオネに赴くことを改めて申し上げたい。

これは、日米協力の道にあるべき姿であると思う。

総理 ^{12時} 明年3月末迄には ^{3時} 中村の外貨準備高は一時

70%の半分に下ると見通されるし、日米間の貿易収支不

均衡も、昨年の40億ドルの半分以下に下る

大統領 133 改善 ~~問題~~ か 極めて困難 なことであらう。日本国政に

も 種々 さまざまな 問題 があるといふことは 十分承知

している。

総理 このため ハワイでお会いした後 輸出を抑制し、輸

入を大中に 小せす 積極的政策を 展開 しようとしてあ

昨日の東京からの新聞 ^{報道} によると 前月の 毎売売価は 15.1

(多量減額) を超える上昇を示した由である。 口際收支の改善は当

初の期待の 2倍近い速度で進んでいるが、ゆかりとしては

口際收支の改善 及び 日米間貿易收支の 不均衡中の縮小

に重点を置いて、口内的な 物価調整 は その次に進めると

いふ形で進めて来た次第である。 物価調整も それ自体

不可能とは考えていない。

大統領 昨日 討議 したことは 朝鮮半島 について意見を

伺った。

総理 朝鮮半島のほか 台湾 についても 触れたい。

まず 朝鮮半島 については、私は 朝鮮は アジア平和

の鍵と考えるか 北鮮は閉鎖的があるのはよく知ら

と考えるので、これをいかんして口連の枠組みに入れるか

韓口と同時に オブザーバーとして参加するような方向に導く

行くのが望ましいと考える。しかし韓口に対しては、あ

まり 38度線は堅持し北から民生の安定に努め、工業化

をはかって、経済的に北が優位に立つように勧めてい

る。

南北を比較すると 製鉄能力において南がやや劣る。

また、第一次産業 特に農業が弱いので、セマール運動

等を通じて 土地改良、かんがい、動力化率を進めよう

と、日本としては支援したいと考えている。

先般、大平大臣と金首相とが会ったが、日本では公

害問題が大きくとり上げられてきていることにもかんがみ、韓口

側で、日本の化学、石油工業等の受入れをはかり、F.O.B.

開発が実現した場合には、同油田の精油所を韓口に誘致

する位の気構えを講ずべきであると勧めている。

大統領： 大きな問題かと思うのは、韓口の対日態度であるが、

であると感じた。その後、や、改善の兆はあるようであるが、もう少し目に見えて評価されるか。

総理： 日韓両国は、一時は一つの国家を形成するところまで歴史の過程もあり、御指摘のとおり一時は対日感情もよくなかったが、現在はそのおちのち事態は全体的に見えてくる。日本の経済協力なしに韓国の安定はあり得ない、また、北朝鮮が南下すれば朝鮮の人口37百万のうち20百万の韓国人口は日本に1か行き場所がない。今や日韓はいかに運命共同体、全く一衣帯水の関係にある、御心配のようない事情はないと思う。

軍事面においては、日連軍として現在の水準での米軍駐留を願いたい。日本としては、韓国が北朝鮮と高い水準に立上るよう援助を進めて行きたい。

大平大臣： 一言「待言すれば」対日感情の大幅改善がみられるのは事実であり、日本としても積極的に経済援助を続

けたいと考えるが、真の友情は韓口の経済的自立を促すことにあり、それを通じて韓口の安全と韓口民の福祉を促すことが大事であると思う。韓口は5ヵ年計画を通じてその完成途に経済的自立を指向しており、日本としてはその途においては特別な経済協力を行なう意向であるが、韓口の経済的自立達成後は通常の「経済協力」に切替えていきたい考えである。

総理： 外務大臣とも種々お合せもしている訳があるが、朝鮮半島については（米口との協力も中心に）日本としては考えがあり、軍事面では何も出来ないが、平たく言えば日本はかつて朝鮮半島に22師団を駐留せしめたこともあり、その程度の金額の経済援助を行なう考えである。

23年スギ官： 私も最近訪韓したか、対日感情の好転はそのとおりかと思う。重要なのは韓口~~韓~~^米口連が今後いかなる進展があるか不詳なため不安感を抱いているのと、韓口自身陸上兵力については自信を保持しており、北側の最近空軍力を増強し、双方の防衛能

μの増減とわく従来のパターンを越えて北に攻撃能力を持たせ始めたとある。

米口は現在12師4万5千人の駐留を行なっているが、韓口軍の近代化計画は当初の予想よりかなり遅れており、2年程延長を要する見込みである。

韓口は、米口議会内に世界に駐留米軍兵力を削減するとの強^{カキ}主張があることに強い不安を抱いている。この点十分配慮を要すると考える。

と云う。昨晚下院で兵力削減提案が否決された。これに対し少しとも1973年は兵力縮小を行なわ

れないとのメロがついたが、重要なのは、口連において敗退をせよと在韓口連軍の解体にもつながり、これは日

本口内にも重大な影響があると承知している。その点についてどうお考えか。

大平大臣 尚書は在韓米軍のプレゼンスがインペアされた

との保証があれば日本にも安心な訳で、口連軍の

旗をとり降す場合も その基礎が裏切られるようにする

には いかんが才途があるか、鋭意 検討を進めてい

る。

口演ス要旨: 米軍の存在も継続するとは肉づいたが、韓

国との相互安全保障条約に基づいて 駐留できる訳であるが、

その場合 日本との関連で 深刻な法律問題も生ずると

了解になる。

概、非武装地域域の紛争解決は口連軍の

これに当てきかね、米軍として^{の立場で}は かつ紛争解決に当ること

はできない。休戦協定の当事者の消滅するといふ点、

題もある。さらに 口連において、口連軍を解体する

のみならず、その過去の行為が無効であるといふ宣

言 なく 決定が行なわれれば、事態は極めて深刻

となる。

共産口側が口連を成功する場合には 極めて重大

事態となるので、朴大統領の南北両韓の同時口連

加盟といったアポロ一歩を支持することは必要と思う。最

い3か。昨日 大平大臣が言われたように 100% 確実に
する必要がある。そのためには 少なくとも 15 票の優
位を確保しておくことが不可欠であると考える。

大平大臣: その真は 日本としても大いに努力したい。安保条約と
韓国との関係において、在韓米軍の駐留を継続し
る限り 実体 ~~と~~ に変更の傾向には着目し、その法的な
側面、口実での要請などについても 日本としても精力的な
検討を進めており、米側とも十分に協議 いたしたい。

234-ス委員: 重要なことは、いずれにせよ 在韓米軍は留まるとい
ても、その実体が 米軍であって 口実軍ではなかったといふ
形で 口実において 処理が行われるか否かであって、そ
の真でも 朴大統領の提案を支持することが重要であ

3.

~~(以下 記録は 作業時間不足のため 72/12/2 出稿
以後 行政部で作成予定)~~

日韓関係

R: 本地域における米と努力の交換は極めて helpful
である。しかし韓国の要求もこの上ない。

北朝鮮との関係において両政府間の交渉は早く
外交と世の接触関係を築く事であって韓日と

の間で東欧諸国との関係が深まるでもいなければ知
らず、自己の立場、^{不利な点}と心配しているものとみられ
る。相対的に望む。

3- 以上の状態を鑑み、北朝鮮側と交渉を促す
に外交孤立の状況からぬき、新しい形とする配慮が

望み、北朝鮮との接触を止める事を求める^{北朝鮮側は}
のではなく、Slow down 交渉の望ましいと考へる。

Q: 日本としても用心深くやって参りたい。

A: 強力は韓国は日本の安全にとって不可欠でもあり、北と

韓国と同列に考えてみる必要はない。

注: 朝鮮半島の共産化は日本の心算に、向けて外ともなる

ので、南の強化は絶対に必要である、常時南側の支持をよかう必要はないと思う。

T: 全く同意である

N: 日米の経済協力は very helpful である、米口自身によ

る軍事的、又その他の援助を維持する^{である。}でも有効^{である。}米口の引揚げを促める (go home US) 声かともとも

大まかにはアジアや欧州ではなく、米口自身においてあり、最近興味があるのは北京も US presence ^{結果として}を要する

と目で見える形に陥っている要である。問題はイデオロギ^{イデオロギ}と無関係であって安定と真実状態の造成と防衛^{イデオロギ}のこと

に核心がある。貴総理とは完全に見解の一致をみている筈だが、日本双方とも新帝の主義、或は新植民

主義を打ち出しているものでなく、問題は米口の引揚げによ

って安全保障 (security) の材料 (machinery) をと
 かし、その過程で他~~に~~利用しよう^{状況} (vacuum) を作らね
 ばならない (勢力がはいりこみ)

にている。米国の立場は長期にわたるバレー・ツェン介入^{debilitating}
 と云う昔の経験に鑑み、類似の役割 (ハネ) をくりかえし

たくないと強く思っている。しかし、インドシナ、特に自
 由な南越の存在は、その周辺のインドシナ、身はマレーシ

ア、インドネシアと云った小国等、ヌタイについても大きな影響の
 ある事であって、米口としては、軍事、経済援助を続ける

が、この地域では、一番大きな貿易通商上の利益 (メリット)
 を有している事は周知の事であり、米口の向望点である^{と云う}より

日本の向望点などの見解も硬く、日本がこの地域との
 関係で大規模建設的政策を遂行しようとしていること
 は心強い (encouraging) 地方である。日本が、

経済援助—軍事的援助は行い得ないとしても—^{今後}
も続けて頂きたい。 世界的観望からみれば、日米両

国にとって必要なのは、中ロ、ソ連との新しい1国1種の道出
であって、その結果 貿易も^{大に}増えようし、その要自衛防衛

措置と併せると、^(game) 同盟の甲核はあき^{軍事上の}対峙^の形
confrontationの形を和^{一方何にもう2行にかた}びあつて、この形には^{非武装}の
^{エスカレ}に非武装

同盟諸国 (Rimland) をどうするか—半の自命題^の
と考へる。 経済的には、自由国の一員である日本は、PVP

の12として ^{人13倍にのぼる} 同盟諸国の事情にも明るく、日米両ソの
由にあつて ^{諸国の支配下にいらねえと云} 同盟諸国が繁栄し、兵隊 ^{戦争} 日本が

又、日本その他諸国の存在によつて
security interestから重要であつて、^の 同盟諸国、
communist countriesのorbital枠外に止まる事は

益々重要と思う。 この意味では antagonism 又は
vigilanceの両方とも必要で、交渉を通じていかんとして

北東の平和と^{利権に}安定の^{この点に}問題であろう。アジア自由港
の強心を通じて同時に「東の安定を回復して行くこと」が

肝要であろう。北東に^{北東}おける^{北東}米軍の^{北東}撤退は、US
some home ^{北東}と^{北東}い^{北東}は、北東に^{北東}米軍が^{北東}止まる

軍を撤退する様子だが、これは大規模な軍であって、貴
族軍が、安保の維持を明確にしている。軍は政治的に勇

気と要する軍であり、アフリカに^{アフリカ}いる、米軍と海軍の他軍と
に最近、北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍

北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍
の防衛負担を^{北東}北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍
北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍

北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍
北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍

北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍

北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍、北東に^{北東}撤退する米軍

合が重要である。

T: 交渉の趣意はよくわかる。

R: 米台関係は、特: 経済面で順調であるが、日台関係も
おもしろいように見ておられよう。

T: 訪米直前に米にワシントン代表と会った際、ヨーロッパにあり
る平和維持、一番危険な地域はアジアである。アジア -

の
~~平和~~ 現実を「ミッドヤ」すべきは一つと申しあげておい
た。アジアの平和の確保の為に万全の保衛を

とらねば自由民主主義が後退すると云う意味において平
和の維持は重要だと云える。訪米後米評論人と会い、そ
の

9日と下両院議員の代表の方とも会ったが、自分
の常同趣意を強調してあったためである。貴人結云々
後

れが好に願う。北米共産化防止は非常に重要であって
韓国の北はソ連勢力の南下を抑え、北米に力をつけては、

同地域への支持も含め之を続ける事が重要だ。台湾
の地位については、中口^との協定もあつて表立ってはいないが

が、米台関係が強化される事を希望する次第である。ア
ジアにあっては、台湾、韓国、南越が自由圏に止まる事

が、アジアの安定化防止の観点から重要だと考える。日本
としても、NATOの参加も得て、東南アジア諸国連合^{ASEAN}も

を通じて自由圏諸国との協力と続けていきたいと考へて
いる。

米側の
O: 中口との外交関係設立の日程は如何。

T: 承認の日程についても合わせて伺いたい。

N: 現在承認も云う事は示されているが、米中双方にと
現在の関係は acceptable なものとして ^{見な} ている。中口

自国特に台湾問題を提起しては言及してはならないと

現在の関係を変えるべき圧力は双方にあって、と云うと

^{アト}向きの提起があり、日米間に全く意見の相違はない事
を確認し得た。日米間の意見交換、共同の研究等は

同様、適当な場合はその各々分組と合めて相俟つること
に見解の一致を見た。之は expert level に止まらざる

第決定 level においても進む事と見た。石油、濃縮
ウラン、公衆防衛等の面で付いた。この研究会は貴大

統領、田中総理の blessing を得て進めたいと示さる。

N= 全く同意であつて全体的に endorse したい。

T= 原子力エネルギーの発展については 1985 年^{12月}日米の
維持率は当初 10% と予想されていたところ、その後之

は 25% にまであげざるを得ない見^{12月}え^{12月} ^{12月}原子力
力については各口からいろいろのアプローチがあるが、日本

としては米国の実情を踏まえて日米間で協力を含める
事を基本として進めたいことを明確に強く打ち出したい。

行った。

これは、共同研究、開発、公営事業、等あらゆる面で、
相互にも計りし、民間の協力も得ながら、米日と協力

していつしよに考えて参りたい。最近ブービにウラン金鉱
発見さし、日本の協力にも打診を計たが、日米日
その開発に
関係した
で協力の

はとがらおとてある。学術面での情報交換にとま
ず、予算面での手配も行って、米日における研究、開発の

米側は

はに予算をtransferし支出すること考えて参りたい。

○ 日米間には多くの協定枠組みがあり、医療、科学技術、文化
並に、

韓国、インド、太平洋等の協定が行われている。エネキ
と云った緊急な課題の他にも多くの協定が行われている

ので、この米日諸君と充分密接な連絡を保ちながら
reviewを行い、重要、合理的なものは存続し、マネタイズ

したもののついてを整理すること、日米間の協定をサリ
組織化した姿をやつて参りたいと思う。

ルに 大変結構と考える。

エネルギー問題についてはラブ知事と全般的な見地からして

任命した訳であるが、日米間に最も密接な協力関係が
保たれるよう指示しておくべきである。双方にあるエネルギー

問題の協定 ^{に迫って} ~~を結ぶべきではない~~ エネルギー問題は工業に
とっては **life blood** とも云うべく、中近東等では

explosive な事態を生ずる事になりしごとく、新しいエネ
ジー・ソースについて協力するのみならず、日米間で可能な関係

合は共に争に及ぶ事が重要と考える。

ト 同意である。所謂クリーンなエネルギー、太陽熱、地熱等

新しいエネルギーについても、^{自然エネルギー} ~~要する~~ 予算上の手当てを
官民合同に委ねたい考えであり、この面でも日米間で協

力したいと考える。

ロ この村舎に安保条約について、即報告をしておきたい。

現在在米大使館、防衛省の協力を得て円滑効果
的な運営が図られており、政府としては全面的な理解

と利便から言えるものと考へているが、本問題には日米同
の基本的な問題でもあるので、最大限の注意を払って当
て場^り

たい所である。基地についても、この整理統合を通じて
consolidationの利益を確保しながら、模範^{てい}られればより少

い経費により効果的な防衛を図りたい。軍事的側
面では、日米としては進んで負担を押し付けたいわけであるが

効果的な基地の提供とその種^能を通じて努力をすべき
であり、この面では日米協力^{は互恵}であると思う。

R: 安全保障上の協力関係は非常に順調で効果的だと思
う。米大使館、防衛省、経済省等の間、連絡も密接に且順調
に行われている。

T: この説明確にしておきたいが、基地の整理、統合は、

2) 合理的且効率的な生産と生産性を高めようという方向
で示されていると云う事である。基地の効率を低下させる

と云う事ではない。事である。近代化を通じて米価の急
激な暴落も回りから、日本としても米輸出が可能
である。

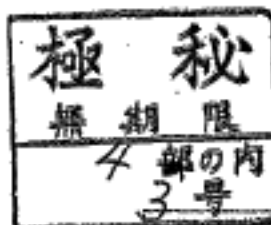
3) 基地合理化につき協力しよう、と云う事で、この案に
で申し出ておきたい。

最後に先程話題となったシベリア問題、ヤコフ 42X =
案については、共同コミニティ等々により行うべきである

5) 5) 協力しよう、この案の中に自身も日本の協力を欲
している事である。

N: この案同様である。甲乙とも互いに利益を一つにできる
(See eye to eye) の間、案内と自分も考えている。

(以上4人で会議を終了した。終了時刻 11時15分?)



大田秘書官

アフリカ局長

アフリカ局長

参事官

中東局長

欧亜局長

参事官

経済局長

北米第一課長

大平外務大臣 ニクソン大統領 会談 記録

(米比) 沼田記

1. 日時 昭和49年5月21日 ~~午後~~ 12時
10分 - 12時55分
2. 場所 ホワイト・ハウス・オーバル・ルーム
3. 出席者 米側: ニクソン大統領,
スコット NSC 次長 (記録)
ヒューストン (通訳)
日米側: 大平大臣
宮川大使
大河原アフリカ局長
沼田事務官 (通訳)

(カメラに映り込んで挨拶の後)

大平: 本日は御多忙の中へこそ表敬の機会を
(大統領)

得た光栄である。田中総理から、くれぐれと
よろしくお伝えしてくれとのことだった。

今回の訪米では、ペンシルバニア大学から名誉学位
を授けられ、ペン・ワシントン・ファミリーの一員として迎え

入れられたことも大きな光栄である。また昨日
はラッシー・國務長官代理と、今朝はインゴ・ユー

國務次官補と、長時間にわたって隔意、アジ
意見交換を行なった。

中栗)

ギン・シンジャー・國務長官にはお会いできなかった
が残念に、貴大統領の英邁な御指導の

下に、中栗長官の申束における仲介の努力が成
功しつつあると聞いて喜んでいる。これは

米国の prestige 及び dignity のためならず
世界平和のためにも何れも増して責を負

ていく敬意を払う。

(日米関係)

わが国においては、日米の仲が最も重要で、絆

外交の基本として、アジア及び世界の平和と
繁栄を行くにあつての cornerstone とい

維持を行くべく最善の注意を払つており
今後とも努力を行く所存である。今日 貴大臣

領事にかかる際、日米の関係について話し
合ふことは光榮である。日米の緊密な

の維持

関係は、アジアにおける状況が非常に不安定
であり、世界の状況も非常に不安定に

いる。今日、非常に重要であり、田中総
理と私も とうとう此に立つ政局を運

意にしていることを申し上げておきたい。

ボブ・トリン: まさ、大臣も御承知の通り、新駐日大使としてボブ・トリン元労働大臣を指名して

が、同氏は財界における豊富な経験を有し、私としても全幅の信頼 (total confidence) を寄せており、今やアジア問題を担当している前任者 (連続) (トリン) の仕事を立派

に引き継ぐ人物 (worthy successor) として、日本の社会に於いても良き仕事の

相手となる (I'm sure you'll find him very good to work with) ことを確信

していることを申し上げておきたい。

同大使も、一日も早く東京に歓迎するつもりで、早くから準備している。

(日米関係)

トクン: 貴大臣が言われるように 日米の
関係がアジアの平和の cornerstone

であることは全面的に賛成である。世界に
平和と構築に行く一歩目について

アジアにおける二大経済強国 (two most
powerful economic units) である

日米が協力して行くことは重要である。
また、自由陣営における二大経済大国

(日EC関係)

(two major free economic powers)
ある日米が、ECとの関係においても

緊密に協力して行く必要があることを
認識することも重要である。

(中東)

中東については、中東の平和と協力
交渉において重要な進展 (significant

中東

breakthrough) が見込まれるが、まだ、^{非常に}難か
しい細目の調整が残っている。(very

difficult odds and ends still to be
worked out.) ^{エジプト・イスラエル間の}

離れし協定ができれば、エジプト・イスラエル間の
兵力的離れし協定と相まって、それ自体一時

的何事でもあるにせよ、より広い話し合いの
基盤を作るものとして、中東における平和を

何にに経済面等における兵通の利益
増進に望むものとして期待を寄せている。

一旦兵力的離れし協定ができれば、それが
モントリオールとして、恒久的解決の途は
道

困難なものであるにせよ。(while the going
is hard for a permanent settlement)

やがて成功するものと思っている。

昨年10月の中東戦争の経験を通じて、

いかに、一旦戦争が起るとは、^(米・日等の)消費国に catastrophic 影響を及ぼすこと

を学んだのであるから、すべての国々^は利己的に自己の利益を追求する

ことを、~~それ~~ すべての利益のために米国の協力を支持して、平和的解決の

ために協力して行くべきである。

対中-関係

ここで、日米両国は^か長期的関心を持つ他の分野に触れたい。日米両国

は、対中-関係において同様の (parallel) アプローチをしている。中-はあんなに

仲が良くないが (not get along too well) 外務省

old), 日米両国とも、中ソのいずれにも
味方せずには両方と仲良くして行こうとしている

(シベリア南端)

この国連で、私は日本からシベリアの石油
ガス等の開発計画を進めると同時に、

中国との貿易等の交流を増進していること
に注目 (have noted) しているが、このようではアッ

ローンは、ブラクマテック等見地から日米両国
に比べて正しい (correct) ものではないと思う。

(中国内政)

中国国内の動きについて貴大臣がどう
見られているのか、中国の指導者交替の可能性
4-4-3770

は否定的か、或いは今の指導者が継続して
行くのか等 } 4-4-3770
うかがいたい。

大平: 現在の中国国内の動きが如何なる意
味を持つかに、われわれとしては把握する

ニッポンは

(日中関係) 利益を利したるは常なりと相手を利する

(日中関係)

どうに思ふてゐるか。正直の心で言ふから言ふが、日中関係は亦べつの面で常識的かつ

自然な発展を示してあり、万一中国のリーダ-シップが衰へても、日中関係の発展は絶

て止むことはなからし、また、続け得ると思つてゐる。

ニッポン：私も、中国にいても、連日にも、リーダ-シップが如何に衰へても、

(日中関係)

採つたけれども利益は衰へないでゐるやうに感じている。(white men may change,

interests remain the same.)

つまり、日米両国とも、中-1に対して

この3観点から

公平に (even-handed) 外交政策を

とつて行ひたいと思つてゐる。貴大臣も総

よく知の通り 中国も一連と、それと
日本が中国の一連の、一方向に

く、
ある、一方に警戒の目をもつておたがいを
監視し合っているから、(each watching

the other to make sure that we
don't tilt in one direction or another

下平: 全く同感である。貴大統領が今
シベリア同盟) 言及したニベリア同盟プロジェクトについて

は 先日 田中総理より貴大統領宛の
トラングのとお届けし、お目通しいてくだ

さいと思っておりますが、その中にまじめられ
ている日本の考え方にフキコトが「あれば」

うかがい願ひ。

二ツイン: 日本が進めつつある方向について
GAG 外務省

積極的に見ている。(We look positively
on the directions in which you are

moving.) 日本が自分の利益を protect
する方に非常に慎重である必要が

あると思うし、その慎重にふるまわれなくては
思ふ。(I believe that you obviously

must be, and will be, very careful)
-連は日本の指針や資金を中要

にしているが、この指針を得るためには、
連は金銭的な代価を支払ふ外交上の代価を

払ふに付なければならぬ。御承知の通り
米国の企業数社が本件に関心を

示している。米國政府として米國の私企業
をコントロールすることはできないが、日本の

民由企業の間で、~~協定の締結~~ 一連に
おいての件は、~~これに~~ 協力の可能

任時には、われわれとしてもかかる協力を
歓迎する。

日. 昨日. 今日. ~~大~~ 大なる軍事的発言力
は持たない。どうしてそうであるか、理由は

を言及している。(Japan today does
not speak with a big military

voice for reasons of which I am
aware.) しかし、日本の経済的発言力

は強大である。(speaks with a mighty
economic voice). 今後とも、軍事的

発言よりも経済的発言を重視に行か
れることを思う。

その間、米国は、ソ連に対する軍事力を維持しに行く所である。ソ連も米国

に対する軍事力を維持しに行く意^図も持っている。それゆえに米ソ首脳会談に臨

(大統領訪ソ)

本時 (When we go to The Summit, SALT) について hard negotiations するだろう。

が行われる。その結果がどうなるか、合意調いではないが、世界の自由陣営

は、この途程で何らかの進歩は見られる。米国としては、アジアにおいても欧州に

あっても、世界の平和と~~世界~~のためのバランスを得ている米国のプレゼンス及び

力は一方向に削減するに過ぎない。

日米安保)

日米安保条約について、わんわんの中国
の有人違はる年前には強硬に反対して
4

ののに対し、今は反対してゐないようだが
これには実際的原因がある。即ち、

④ 日本が無防備な状態にあること (a
defenceless Japan) は、中国の利益

に合致しない。また、^{中国の利益の場合} 中国に何をする
こともできない。だから、defenceless Japan

は中国の隣国のいっつゝの利益と矛盾する
かも知れないからである。私は、日米の相互

安全保障政策は、経済面での協力
と相まって、アジア全体及び世界のバランス

を維持していくに必要であるとの consensus
がありと信じる。冒險主義 (adventurism)

に走る可能性のある他の国々の行動力を抑える効果を期待している。

(対米関係等についての日連発)

最後に、私は、キッシンジャー長官に対して、日本、欧州及び中国に大きな影響

を有する対米交渉、特に中東問題等について、適当なチャンネルを通じて日本に

連絡して行くよう (to keep you informed) 指示する事を申し上げておきたい。

大平: 貴大統領のお言葉に感謝します。
(日米関係) 御承知のとおり、日米安全保障条約に対する指摘

中国、ソ連、及び日本国内の理解が深まって来ているのは大変健全な傾向で

あるが、これからと言って気をゆるめることなく、この関係を強化すべき努力をして行

アムール

(シベリア問題)

シベリア南端についての貴大統領の

④ ^{事件につき}

コメントに感謝する。日本としては、如何
なる形においても米国の協力を得て行く

ことが必要と考えており、米国との協力を
強く希望していることを申し上げておきたい。

二ツツン：(話題を転ずるよう) インドの

(印独実験)

核実験にどうして日本は如何なる反応を

了
西
軍

しているか。

大平：私もニューヨークでコースに接したば

かりで詳しくは分らないが、日本の政

策がこれによって大きく影響を受ける
ことは無いという意味では、まだ程

では無い。影響は

大きい。シベリアを占領している。

(核拡散)

ニクソン: 問題は、他の国々へ核の隠匿
をとり回 (go nuclear) と言う連鎖的

の危険があることを言うが。

如何なる

大平: 連鎖的であるかの点は難問し
か、まず potential を持つ国のい

で、ある日本は、核の南進を考えてい
ることは申し上げられず、日本がどうあるか

が私の最大の関心事であるが、しかも
日本は今後の政策を考えてい

ニクソン: 米国のため、日本が自国の安全
保障のために何をすべきかと言う

ようにいっているが、哲学的見地か
らの外見ても、核爆発の年輪

を保有する国が増えるに^{つれ}い^は、世界

的核戦争の危険が増大すると思う。
~~経済~~ ではどうしたら良いかと云う事は、

自衛、平和の構造を強化すべくより
 一層の努力を行うに~~て~~経済

的、政治面等々の利益に基いてかかる
 努力を行つて、諸國が如何なる力を

有してゐるにしろ核の選択を拒否する
 ようにしてくるに~~て~~戻つて来る。これは

理想主義的に聞かされても知れないが、
 他にやるべき道はないと思う。

田中総理、福田大臣等私の親しい
 方々によろしくお伝え願ひたい。

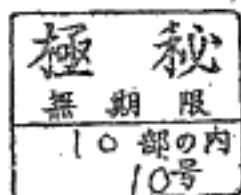
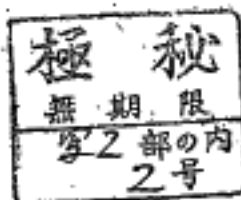
福田首相へ)

大平、小池によろしくお伝えする。福田大臣
 はC-70会議出席のため6月16日頃

訪米の予定であり、青大統領にお会い
するのを楽しみにしている。

＝ケリン： 私バワシントンにいれば、喜んでお
会いする。

(席を立って、外の自乗車迄 大車大屋
を見送る。)



田中総理・フォード大統領
第1回会談

昭和49/1/29

アメリカ局北米第一課

1/1月/9日赤坂迎賓館において行われた田中
総理とフォード大統領との第1回会談の概要次の
とおり。

米側同席者 キッシンジャー國務長官、ホッドソン大使、
ハビブ國務次官補、スコークロフト安全保障
担当補佐官代理、ウィッケル（通訳）

日本側同席者 木村大臣、安川大使、鶴見外務審議官、
山崎アメリカ局長、木内秘書官、宇川課長（通訳）

1. 天皇御訪米

まず大統領より「先刻天皇、皇后両陛下に御
謁見を賜つた際、かねがね両陛下を御招待申し
上げていたが、あためて米國を訪問されるよ
う御招待申上げたい旨申述べたところ、両陛下
より御招待を感謝し、政府と相談の上訪米した
い旨のお言葉があつた」と述べた。これに対し
総理より「大変結構なことであり、両陛下の御
都合をあらためて伺つた上、早く実現するよ
り取り運びたい。具体的時期は外交経路で相談の
上決定いたしたい」旨述べた。

極秘

2. 日米友好関係の再確認

大統領より「今回の訪日は、日米の緊密な友好関係を再確認する意味で有意義と思う」と述べたのに対し、総理より「日米修好ノ〇〇年余にして、現職の米国大統領が初めて訪日された意義は大きい。戦後の連合国の日本占領が米国が中心となつて行われ、ドイツのように分割占領されなかつたこと、またガリオア、エロア、賠償免除等を通ずる米国の施策のお蔭で日本は今日の繁栄をえたことを国民の大多数は感謝している。どんないいことをしても必ず反対はあるもので、アイゼンハワー大統領が訪日できなかったのもそのためだが、日本人の大多数は、米国を最大の友好国と考えている。貴大統領の訪日は日米友好関係に大きな効果をもたらすものと信ずる」と述べた。これに応じて大統領は「戦後両国間にいろいろな小さな意見の相違 (minor differences) はあつたが、われわれはそれを克服してきた。今後エネルギー、アジアへの援助等の分野で日米協力の幅 (dimensions) を拡げ

極秘

てゆきたい。それは卒直な話し合い (open discussions) がなによりも必要であり、戦後つちかわれた日米関係は、かかる協力拡大の強固な基礎を提供するものである」と述べた。総理は、「日本外交の基調は日米友好であり、日米安保条約は日本の防衛のみならず、アジアの平和維持にも役立ってきた。日本は、この安保条約を堅持してゆく決意である。過去において日米両国にはいろいろな問題があつた。74年の両国の貿易量は200億ドルを超えようが、これだけ両国の交流が盛んになれば若干の摩擦が生ずることはやむをえない。72年には40億ドルの米側の赤字が大きな問題となつたが、この貿易収支の不均衡も日米両政府の協力で解決できた。あらゆるレベルのコミュニケーションをよくすれば解決できぬ問題はないはずである」と強調した。ここでキッシンジャー長官は「田中総理は貿易収支不均衡の是正につき努力を約束され、これを意欲的に解決された」旨付言した。

3. アジア情勢

総理より「日本は西独と似ているといわれる

極秘

が、国際環境は異なっている。西独は近くに仏、英等の先進工業国があり、ソ連に近いがNATOの団結がある。これに反して日本は、隣りに中国、ソ連という共産大国があり、ソ連はTokyo Express と称する偵察飛行を日本周辺で行っている。朝鮮は二つに分裂し、台湾問題もある。アジアにおける平和維持は非常にむづかしい。アジアも平和に向つて動いてはいるが、世界で最後まで平和にならぬのはアジアであろう。アジアは広大であり、貧困、宗教、人種等々多くの問題を抱えているからである。アジアに平和が確立すれば世界に平和も訪れよう。そのためにも日米間の協力、理解と日米安保体制は長く続けねばならぬと思う」と述べた。これに対し大統領より「米国も日米安保条約を堅持する決意であり、アジアは米国の外交政策においてもプライオリティの高い地域である。それ故に、自分は日本を最初の訪問国に選んだ。米国は中国とも良好な関係を維持しているが、これは平和にも有益と思う。今回のウラジオストック会

極秘

談は、米ソのデタントの確認と米ソ関係をさらに拡げるためであり、これは日本や欧州にもよいことだと考える。韓国は勇気ある強い同盟国 (courageous and strong ally) であり、今回の韓国訪問は、同国に対する明確な支持を示すためである」と述べた。キッシンジャー長官はここで「訪ソ及び訪中後大統領の指示に基づき日本に立寄り、日本側にブリーフする予定である」と付言した。

4. 対日食糧供給

大統領より「日米貿易の拡大を重視しているところ、日本が米国から年間30億ドルの食糧を買っていることはよく承知しており、米国は今後も日本に対する食糧の大輸出国 (big supplies of food) でありたく、また、積極的、かつ、十分な供給 (positive and adequate supply) を続けたいと思う。4～6週間前にソ連の大量買付の動きがあったが、米国は強い措置 (firm action) をとつた。われわれは日本のような伝統的顧客には恣意的な行動 (arbitrary action) はとらないつもりであり、この際明言しておきたい (make very certain)」と述べた。

極秘

これに対し総理より、小麦、大豆、飼料等につき、日本が米国にいかに依存するところが大きいかを数字をあげて説明されるとともに、大統領の言明に対し謝意を表された。さらに大統領より「米国は本年は作付制限を全面的に撤廃しており、増産に努めたが、気候不順 (wet spring, dry summer and early frosts) のため期待したほどの収穫はあげられなかつた。来年も増産に最大の努力を払いつもりである」と述べた。

5. 牛肉問題

ここで大統領より「実は自分は牛肉業者 (cattle producers) から大きなプレッシャーを受けている。米国では肉牛に対する需要減退と飼料価格高騰のため彼らが困っているところへ、日本が牛肉の輸入を禁止したので、オーストラリア等の牛肉が米国市場に殺到し、彼らはますます苦しい立場にある。ついては本件につき日本側と話し合いを始めさせたい」と述べた。これに対し総理より「日本の牛肉消費は過去10年間ふえてきたが、価格が上つたためか、消費が減つてきている。日

極秘

本は年間13～14万トンの牛肉を輸入しなければならないが、米国と同様の事情で日本の肉牛農家も非常に困っているため、オーストラリア等からの牛肉の輸入を停止せざるをえなかつた。それでも事業団は6万トンの肉を手持している有様で、国民の消費をふやし、手持の肉を処分できればできるだけ早く輸入を再開したいと考えている」と述べた。なお、総理は、3年前当時のコナリー財務長官の強い要請で米国産こうしにつき5,000頭の輸入割当を設けたが、実際は500～1,000頭しか輸入されなかつたことを説明された。

6. 南越援助

大統領より「日米協力の幅 (dimensions) を拡げるとの見地から南越援助につき日本の協力をえたい。南越の経済成長を助け、その政治的安定をもたらすことは日米両国にとり利益であると信ずる。米国政府は現在年間10億ドルの軍事援助をしているが、議会は好意的 (generous) ではなく、援助額を大幅に削減しようとしている。

極秘

南越の沖合に非常に有望な油田が発見され、これが近く南越経済の再建に寄与することが期待される。日本の今まで^V南越に対する経済援助につき高く評価している。本年も64百万ドルの援助をしていただいたが、来年はさらに増額していただくよう希望する」と述べた。これに対し総理より「日本は軍事援助はできぬので、経済援助は国力の許すかぎりできるだけふやす方針である。ただ南越援助については、野党の反対もあるのでなかなかやりにくい面がある。

ASEAN諸国、ビルマ、^Bルンガラデッシュ等にも援助しなければならないので、これらとの関係も考えバランスをとって南越援助も行いたい。御趣旨は分つたので、来年度の予算編成の際十分考慮したい。少なくとも今年度より下回ることはないようにしたく、できれば増額するよう^Vにしたい」と述べ、大統領は「そうしていただければ大変助けになる (very helpful)」と述べた。

7. エネルギー問題

大統領より「石油緊急融通計画 (IEP) の作成に関する日本の建設的役割を多とする。消費国

極秘

間の協力は絶対必要 (vital) であると信ずる。生産国と対決するためではないが、消費国間の態勢を整えて、生産国と交渉する力 (strength to bargain) をもつ必要がある。キッシンジャー長官のシカゴ演説の提案の趣旨もそこにある。日米は協力して、この問題につき消費国間の互惠関係 (beneficial relationship) を作り上げるべきだと思う」と述べた。これに対し総理より「エネルギーはわれわれの直面する最大の問題であり、キッシンジャー提案の趣旨は理解できる。ただ日本のエネルギー消費構造は米国のみならず、英や独のそれとも異なる。日本は石炭等代替エネルギー^に乏しく、エネルギーは大部分石油に依存せざるをえず、その消費量は昨年3億トンに上つたが、そのほとんど全部が輸入石油である。しかも石油消費の約7割は産業用、残り3割は民生用で、米国の場合の産業用3割、民生用7割とは丁度逆になつており、節約をあまり強く推し進めると直接生産の削減につながるおそれがある。こういう日本の特殊な状況を前提として対処して参りたい」と述べた。これに対しキッ

極秘

シンジャー^{長官}より「問題は二つある。一つは主要消費国が輸入石油への依存度を減らすために団結すること (concept of solidarity^V) であり、もう一つはそれをいかなる具体的手段 (specific measures^W) で実現するかということである。自分がフォード大統領の指示に基づき行つたシカゴ演説でも、前者を強調するとともに、後者についてはフレキシブルにしてある。日本の~~ような~~場合、国内に直ちに代替エネルギーを求めることは困難であろうから、新しいエネルギー源（たとえば濃縮ウラン）の供給を他国（たとえば米国）が考慮することとも必要となろう。そういう共同プログラムを検討することでもできよう。こうすれば日本の^{特殊}事情も考慮できる (can take account of ^{Japan's} special requirements^W) と考える。なお、われわれは成長を犠牲にしてまで節約を^ま推し進める^ははいつていない。ともかく輸入石油に対する依存度を高めないことが、主要消費国の立場を強める所以である」と述べた。さらに大統領より「米国はすでに太陽熱、地熱、石炭の効率的利用等の代替エネルギーの研究開発を進めている。IEP

極秘

グループも緊急時の石油不足の際平等に負担し合う意味で有用である。われわれは共同して輸入石油に対する依存度を低めねばならない」と述べた。総理より「わが国は石油は全面的に輸入せざるをえず、その高価格はわが国の国際収支に深刻な影響を与えうる。大統領の言及された代替エネルギーの研究開発も従つて真剣に進めているが、独自の解決は困難であり、やはり米国を含む先進工業諸国と協力して代替エネルギーについても解答を求めて行きたい」と述べた。これに対しキッシンジャー長官より「今後数週間以内に自分のシカゴ演説で述べた計画の詳細につき日米2国間で静かに (with^{out} any drama) 討議したく、米国から日本に人を送るかまたは日本から米国に人を派遣することとしたい」と述べ、大統領は「キッシンジャー長官のシカゴ演説は米国として重要な政策表明である」と付言した。


8. 核問題

最後に総理より



極秘



と述べた。これに対し大統領より「米国は日本国民の  特殊感情は十分理解している。また私は安保条約上の米国の義務も十分承知している。この政治的にセンシティブな問題~~経~~によつて日米間の友好関係がそこなわれることがあつてはならない」と述べた。

以上をもつて会談を終つた。

（会談終了直後木村大臣とキッシンジャー長官間で新聞等への説明ぶりにつき打合せた。）

いわゆる「密約」問題に関する調査 報告対象文書

(1. 1960 年 1 月の安保条約改定時の核持込みに関する「密約」問題関連)

【注意事項】

○このファイルは多数のページがあります。

○印刷する際には留意願います。

木村 大臣

事務次官

官房長

条約局長

条約課長

別途同課

安全保障課長

1-1 米局長
1-1-1 米局長
1-1-2 米局長

極 秘
無 期 限
/ 部 の 内
/ 号

三木総理
御読了おみ(50.1.17)
比時社書下すこと

昭49.12.3.

山崎アメリカ局長

フォート大統領訪日の際核問題に関して
行われた会談詳録を別添のとおり可覧し

ます。取次いは十分御注意下さい。

別添1. 昭和49年11月19日の田中総理と
フォート大統領才1回会談における核問題
詳録

別添2. 昭和49年11月20日の木村外務大
臣キシンジャー同務長官会談における核
問題詳録

別添 1.

昭和49年11月19日の田中総理ノー・ド・グレート・パワー
サミット一回会談における核問題 詳録

昭. 49. 12. 3.

田中総理: 最後に核兵器の問題について
日本とアジアの平和に必要な重要な柱である。この条約は
一言したい。日米安保条約は、日本への核

兵器の持ち込みを事前協議の対象としている

が、当時は主として戦略核兵器を頭に

おいていたものと思う。その後戦術核兵器

が非常に発達してきた。核兵器による抑止

2

力という米國や欧州の考へ方は自分として

は理解できるが、日本では核兵器に關し

て過去の経験に基づく特殊な感情がある。

また、^{かかる感情}~~これを~~を政治的に利用しようとする人々

がある。核兵器の持込みの疑惑がわが

國でやかましく言われるようになったのは、

ミッドウェイの母港化等を契機とするもの

である。米國の核の傘の下で、日本の安

全が保障されているのは事實であるから

この核の疑惑に対する日本国民の質向

に米側として^は答へにくいであらうが、~~その~~

かかる日本国民の核兵器に対する敏感な感情ないし

特殊な考え方があるのも事実である。この点、

(は理解していただきたい)。野党等から提

起される問題は不毛の議論ともいえる

か。日本政府としては、この政治的課題に

答えなければならぬ立場にある。これは

ラロック証言以来特に然りである。つ

ては本件につき米側の理解と協力を

得たい。

フォード大統領：日本国民の核兵器に

対する特殊感情については自分も十分承知

している。また、日米安保条約でこの

4

問題がいかに取り扱われているかという
(familiar with the terms and language of the Treaty)

こともよく知っている。また、この問題が

日本において大きな政治的問題で

あることも十分承知している。自分はこの

問題の解決につき、できるだけ協力し

たいと思う。日米両国政府が協力^し~~する~~

(positive something can be worked out)

れば、必ずや解決策は見出されるもの

と信じる。詳しいことは マッレンジャー

・ 木村大臣と

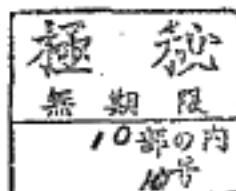
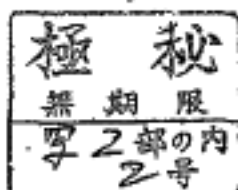
長官と話してもらいたい。何れに

しても、この問題のために日米の特別

な友好関係を害するようなことがあつて

5

はならないと思う。



田中総理・フォード大統領

第2回会談

昭和49.11.29

アメリカ局北米第一課

11月20日赤坂迎賓館において行われた田中総理とフォード大統領との第2回会談の概要次のとおり。

米側出席者 キッシンジャー国務長官、ホッドソン大使、ハビブ国務次官補、スコークロフト安全保障担当補佐官代理、ウィッケル（通訳）

日本側出席者 木村外務大臣、安川大使、鶴見外務審議官、山崎アメリカ局長、木内秘書官、宇川課長（通訳）

1. 朝鮮半島

総理より「朝鮮半島の問題につき一言したい。朝鮮民族は優秀な民族であり、4000年の歴史をもっている。しかしその長い歴史の間絶えず周辺諸国から圧迫されてきたために、その性格は必ずしも素直でなく、多くのコンプレックスを持っている。この朝鮮民族が南北に分割されていることはもつとも不幸なことである。第2次大戦後4つの分裂国家ができたが、自分のみるところ南北両鮮の統一の話合いはもつとも難しいと思う。自分は北京やモスクーを訪問した

極秘

際、朝鮮の一方の側だけを支持し続ければ極東に平和はこないということを説いた次第である」と述べた。これに対し大統領は「前回にも述べたとおり、われわれは韓国を勇気あり、かつ、強い同盟国 (courageous and strong ally) と考えており、その経済発展も目覚ましいものがある。自分は訪韓して同国に対する米国の支持を再確認したいと考えている。他方他の諸国は北鮮との接触につき慎重な態度をとつて欲しい (appreciate caution / appreciate caution) と思う。米国としては現在直ちに北鮮と話合う考えはない」と述べた。ここでキッシンジャー長官は口をはなみ「米国としては北鮮と話合う用意はあるが、それには中ソが韓国と話合う用意がなければならぬその立場をとつてきた」と述べた。これに対し総理より「その意味でフォード大統領が韓国を訪問するのは有意義と考える」と述べた。

2 南越援助

ここで大統領は、前回に引続き再び南越問題を取りあげ、「同じく分裂国家の一つとして米

極秘

国は南越をも強く支持したい考えである。同国の経済を再建し、北越に負けないような国を造りあげるためには、われわれは軍事及び経済援助を続ける必要がある。米議会の一部には、この援助につき批判が多いが、なんとかその支持をとりつけるよう努力するつもりである。ついでには日本も同国に対する援助を増大していただきたい。これは日米等自由世界諸国の利益に貢献するものと信ずる」と述べた。これに対し総理より「わが国は韓国に対しても援助を行っているし、南越に対してもできるだけ援助を増やすように努力したい」と述べたところ、大統領より「できるだけのことをしていただきたい。来年が南越にとっては決定的な年 (critical year) である。南越は潜在的な発展力を持つており、南越沖合の石油は非常に有望である」と述べた。総理より「南越沖合の石油は米国の会社によつて試掘されているのか」と訊ねたところ、キッシンジャー長官は「米国の会社が試掘を行つているが、同会社は他国のパートナーをさがしており、参

極秘

加の範囲を拡げる用意があると聞いている。われわれは南越政府にそのようにするようエンカレッジする用意がある」と答えた。大統領は「この石油採掘事業に日本も参加することは、日米双方にとつての利益になると思う」と述べ、さらにキッシンジャー長官より「サイゴンの米大使館の報告によれば、南越に対し今後年間数億ドル (several ^W hundred million dollars) の援助が数年間 (for a few years) 続けて与えられれば南越の経済的困難は克服できるとのことである。これは南越の将来にとつてもつとも重要な問題であると思う」と述べた。

3. 中 東

大統領より「キッシンジャー長官は先日ソ連、インド、中東等の諸国を歴訪したが、中東問題については一歩ずつ (step by step) に進む以外にはないとの結論であつた。情勢に持続的進展 (continuous progress) がみられることは勇気づけられる (encouraging) 次第である。なにも事態が進展しないで停滞することが最も危険である」と述べた。

極秘

キッシンジャー長官はこれを補足して、「アラブ諸国の競争関係 (rivalries) は非常に激しい。アラブの世界では平和を志向する者が戦争がくるぞといつて大きな声を出す傾向がある。たとえば17日にエジプトのサダト大統領が国防省の幹部と対イスラエル戦争に備えて会議をしている写真が新聞に掲載されたが、これなどはわれわれがイスラエルとシリアとの間で戦争が起らないように UNDOF (国連兵力引離し監視軍) の延長につき保証を与えた後にこういうジュスチチャーをとっているのである」と述べた。

極秘

4. 中国及びソ連

総理より「わが国が中国との国交正常化ができたのは、米国のおかげである。かつて中国は米国とソ連の双方を帝国主義として攻撃していた。自分が2年前に北京を訪問した際、中国側に対し、『米国は侵略勢力ではない。現に米国はパリ協定が成立すればヴェトナムから米軍を撤退したではないか。また、わが国に対し沖縄を返還し、米国は領土的野心のない国であり、中国に脅威を与える勢力ではない。台湾問題の解決は時間をかけるべきであり、この問題で米中が対立することは中国にとって不利益である。米ソのいずれが平和勢力であるかは、戦後ソ連は多くの領土を獲得し、米国は領土を獲得していないという証拠からみてもおのずからわかる筈である』と話した次第である」と述べた。これに対し大統領は「米国が領土的野心を有しないことにつき中国側に説明されたことを感謝する。米中関係が改善されたことは非常に大きな外交的成果であつた。今後米中関係は上海コミュニケを基礎として一步一步 (step by step) 進めてゆ

極秘

きたいと思う。キッシンジャー長官はウラジオ会談後訪中する予定である。米国は中国との関係改善をねらつてソ連と仲よくするわけではなく、また逆にソ連との関係改善のために中国に接近しているわけでもない。米国は中ソ両国と同時に関係を改善したいのである。今度のウラジオ会談では、ソ連とのデタントを今後とも進めることを明らかにするとともに、主としてSALT交渉の打開につき話合ひつもりであるが、このことは他のすべての国にとつても利益になると思う」と述べた。総理より「中ソはともに大国であり、その両国が仲よくすることは世界の平和のためにもよいことだと思う。しかし実際問題として、中ソは6000kmにわたつて国境を接しており、川を中心が国境線になつていところが多いが、川は動くので両国間の国境確定はなかなか難しいと考える」と述べた。キッシンジャー長官はここで口をはさんで「ソ連は川の対岸が中ソ間の国境であるといつており、話がなかなかまとまらないようだ」と述べた。続いて総理より「わが国は中国は大きな脅威とは思つてい

極秘

ない。しかし、シベリアに増強されているソ連兵力には神経をとがらせており、不安を持つている。米国はこれをどうみておられるか」と問うた。これに対し大統領は「SALT交渉は世界に安定をもたらすものと考えてるのでこれを進めてゆくが、米国や自由世界の利益を犠牲にしてまで進めるつもりはない。米国の軍事力はあくまで強力なものとして保持する考えである。議会の一部には米国の海外配置兵力の削減を強く求める者もいるが、米国民の大多数は強力、かつ、即応性のある海外兵力の維持を求めており、米国の軍事力を弱めることに反対していると考ええる。米国は欧州においてもNATO諸国と協力して軍事的安定をもたらすよう努力している。欧州諸国の中には経済的困難を理由として、軍備増強の約束を守らないものもあり、一方、公けに米国を批判する向きもあり、愉快なことではないが、われわれはあくまでNATOを強化する決心である。要するに米国は太平洋方面においても、ヨーロッパ方面においても軍事力を一

極秘

方的に削減する考えはなく、かかる軍事力の上
にたつて、十分用心しながら (at arms length^{at}) ソ連
と交渉を続けてゆく考えである」と述べた。さ
らにキッシンジャー長官は「ソ連はシベリアに42
カ師団駐留させており、その半分は沿海州にお
いており、戦車も15,000台持ち、近代化され
ており、通常兵力は年々強化されている」とコ
メントした。総理は「ソ連がシベリアに強力な
兵力を展開していることはわれわれもよく知つ
ている。モスクワに訪問した際自分はこの兵力
は中国に向けられているのか、あるいは日本に
向けられているのかと尋ねたところ、ソ連の指
導者はなにも返事をしなかつた」と述べた。

5. シベリア開発

ここで総理よりシベリア開発の問題にふれ、
「シベリア開発については、ソ連は当初いろい
ろなプロジェクトを一つのパッケージとして話合
ひたゆとゆたゆいた後に最終方針を最終拒否し、
一つ一つ話合つてゆこうといい、現に森林開発
や石炭開発の話はまとまっている。チュメニ石

極秘

油については、パイプラインにかえて鉄道で運ぶという話がでてきたので、これはソ連の軍事力強化増強につながることであり、参加できないと断わつた。いまヤクーツクの天然ガスの話が進んでいる。われわれとしては経済的に合理性のあるプロジェクトから一つ一つ取上げてゆくつもりである」と述べた。これに対し大統領は「賢明なる決定 (wise decision) であると思う。日本の方針はシベリアの経済開発に資するものはよいが、軍事力の増強に直接つながるものはノーであると了解するが、これに対するソ連側の反応はどうか」と問うたのに対し、総理は「その方針をなまの形でソ連側に示しているわけではないが、いろいろなプロジェクトは一つ一つそのメリットに応じてとりあげたいといっている。このシベリア開発については、中国を刺激しないようにしたいし、また、所要資金量も大きいので米国も参加していただければ幸いである。シベリアの資源はヨーロッパには遠いので、結局日本または米国に向けるほかないと思う。

極秘

ソ連はこの日ソのプロジェクトに米国が参加することに反対しないといっている」と述べた。大統領は「米国はヤクーツクの天然ガス開発計画等に関心をもっている。しかし、それに参加するためにはいくつかの問題を解決する必要がある。なによりもまず通商法案、輸銀法案等を成立させる必要があり、自分とキッシンジャー長官とは両法案の成立を重視して大いに努力してきた。これらの法案が通れば米国も日本側と腰を落着けて話合ふことができる (we can sit down and talk with you)」と述べた。ここでキッシンジャー長官は「最新の情報によればロング上院財政委員長は12月2日に通商法案を上院本会議に付託することに同意したので、通商法案成立の見通しは明るいと思う」と付言した。

6. 漁業問題

大統領より「ここで漁業問題につき一言したい。米国内では北西太平洋において日本その他の諸国の漁業活動が、乱獲であり、資源が減少してきているという声が強い。これは海洋法会

極秘

議の動向とも関連しているが、地元出身の議員達は、米国の漁業水域を200カイリまで延長する法案を提出し（この点については、太平洋岸のみならず、大西洋岸出身の議員も同調し易く、大きな圧力となつてゐる。）、これを成立させて日本等の遠洋漁業国を締め出そうと図つてゐる。かかる国内立法は不適當と考えるので、この際日本側としてもなんとかこの水域における漁業活動につき規制（some restraint）していただけないだろうか」と述べた。これに対し総理より「北西太平洋漁業問題が日米間の重要な問題の一つとなつてゐることは承知しており、誠意をもつて協議して問題の解決をはかりたい。ただ申し述べておきたいのは、日本人の摂取する動物たん白質の半分は魚からとつており、その20％は北太平洋漁業から来ている。日本政府としても魚族保存、乱獲防止や栽培漁業につきいろいろの努力を払つてゐる。米国としてはさけ、ますのような遡河性魚種はとらないで欲しいとか、また一部の魚種につき公海の中に規制

極秘

区域を拡大したいといっている由であるが、これらの点については丁度11月25日から日米漁業交渉が始まることでもあり、十分交渉させたいと思う。ただ日米間の漁業問題は直ちに日ソ間の漁業問題にはわかえるので、なかなか難かしい問題である」と述べた。大統領は「総理がこの問題につき話合うとの態度を表明され、卒直な見解を披瀝されたことを感謝する。自分も国内の関係業者から政治的プレッシャーを受けていることを御理解願いたい。折衝の詳細は専門家に委ねることとしたい」と述べた。

7. 最後に、総理及び大統領は共同声明の内容につき確認しあつた後会談を終つた。

いわゆる「密約」問題に関する調査 報告対象文書

(1. 1960 年 1 月の安保条約改定時の核持込みに関する「密約」問題関連)

【注意事項】

○このファイルは多数のページがあります。

○印刷する際には留意願います。

本村 大臣

事務次官

官房長

条約局長

条約課長

別途
同課

安全保障課長

1-1 米局長
1-1-1 米局長
1-1-2 米局長

極 秘
無 期 限
/ 部 の 内
/ 号

三木
総理
御
返
答
の
お
し
り
(50.1.17)
比
時
社
書
下
さ
し

昭49.12.3.

山崎 米局長

フォート大統領訪日の際核問題に関する
行われる会談詳録を別添のとおり可覧し

ます。取扱いには十分御注意下さい。

別添1. 昭和49年11月19日の田中総理と
フォート大統領才1回会談における核問題
詳録

別添2. 昭和49年11月20日の本村外務大
臣キンジャ-外務長官会談における核
問題詳録

別添 1.

昭和49年11月19日の田中総理府内大統領
第1回会談における核問題 詳録

昭. 49. 12. 3.

田中総理: 最後に核兵器の問題について
日本とアジアの平和に必要な重要な柱である。この条約は
一言したい。日米安保条約は、日本への核

兵器の持ち込みを事前協議の対象としている

が、当時は主として戦略核兵器を頭に

おいていたものと思う。その後戦術核兵器

が非常に発達してきた。核兵器による抑止

2

力という米国や欧州の考え方は自分として

は理解できるが、日本では核兵器に関し

て過去の経験に基づく特殊な感情がある。

また、^{かゝる感情}~~これを~~を政治的に利用しようとする人々

がある。核兵器の持込みの疑惑がわが

国でやかましく言われるようになったのは、

ミッドウェイの母港化等を契機とするもの

である。米国の核の傘の下で、日本の安

全が保障されているのは事実であるから

この核の疑惑に対する日本国民の質向

に米側として^は答えにくいであらうか、~~その~~

3

かかる日本国民の核兵器に対する敏感な感情ない

特殊な考え方があるのも事実である。この点

は理解していただきたい。野党等から提

起される問題は不毛の議論ともいえる

か。日本政府としては、この政治的課題に

答えなければならぬ立場にある。これは

ラロック証言以来特に然りである。つ

ては本件につき米側の理解と協力を

得たい。

フォード大統領：日本国民の核兵器に対す

る特殊感情については自分も十分承知

している。また、日米安保条約でこの

4

問題がいかに取り扱われているかという
(familiar with the terms and language of the Treaty)

こともよく知つてゐる。また、この問題が

日本において大きな政治的問題で

あることも十分承知してゐる。自分はこの

問題の解決につき、できるだけ協力し

たいと思う。日米両国政府が協力^し~~する~~

(positive something can be worked out)

れば、必ずや解決策は見出されるもの

と信じる。詳しいことはネッレンジャー

・ ^{木村大蔵と}

長官と話して貰つてほしい。何れに

しても、この問題のために日米の特別

な友好関係を害するようなことがあつて

5

はならないと思う。

81 添え.

アメリカ局長

極 秘
無 期 限
/ 部の内
/ 号

昭和49年11月20日の

(木村外務大臣・キッシンジャー国務長官
会談における核由題 ~~の~~ 要録

評

昭和49.12.3

(大臣より、食糧、エネルギー由題への
関連で、日本の安全保障は第一軍事面に

限らず、かかる経済由題にもかかわる
広範な側面を有している。と指摘され

に端を認める核持ち込み問題

77. ラロック ~~議長~~ は、日米両国の協力関係
完

の credibility に由題を投げかけている
ことは事実である。と述べたのに対し、)

キッシンジャー : 私の持論の一つは、

軍の中で大佐級には優秀な人が沢山

いるが、将官になると優秀なのは少ない。

一に二に三スコウログト補佐官代理は最近
(頭がぼけないうちに)

中將に昇進した ~~彼~~ 彼の頭脳は大佐

の2、)

ラロツク 存じこいう提督は、いふ、おれ

La Racque

瑞

不要起问题之名字。

✓ 4 3 2 1 0

殊

外務省

必要とする。 (いんかの) 3
~~守らなければならぬ~~ 条件 (certain minimum
operational necessities) が^シあり。これ
が^シ充分)
~~守らなければ~~ 西部太平洋地域^シの安全が
脅かされることになる。また、^シこの国
の^シ関係^シ
一旦先例を作ってしまうと、^シこれは「パター-
ン」^シとして波及し、收拾がつかなくなる
(unmanageable) という問題もある。
しかしながら、^シ米国の^シ時、^シ日米国民の
^殊特殊感情を最大限考慮に入れるべく
努める所^シである。(We will go to
the absolute limit of taking your
special sensitivity into account)
今日のこの会議が詳細にわたって話し
合う最高の機会^シではないか、との最大限

の発言には同感であり、今後日本側より
ワシントンに誰かを派遣するか、あるかは、

米側より誰かが東京に来て話し合うこと
には如何かと思う。

大臣： 日本国民の特殊な感情を理解
してゐる点は appreciate する。

今日の席ではこれ以上お話しすることは
避けて、貴長官の示唆は多とする。

(内政理由で話し合うことについては)

これ、本問題はわが国の国内政治上
最高の政治的決定を要する問題で

^{を繰り返す}
あることを申し上げておく。

キッシンジャー： 今迄本問題を日本政府^が
主張に (in a statesmanlike
fashion). 処理してきたことを appreciate する。

5

(会談の終りにあつて、対ソリス説明
びやを打合せる際、木村大臣より、~~核~~

持ち込み問題については、専らより日本国民
の特殊な感情を説明して、~~核~~
首を迂へ

今後二の問題を特に両政府間で
せよとて話し合いが行われる事は一切

公けにせず、~~たに~~ 安保条約の運用につ
~~行われるべき~~ 両政府間の話し合いの
今後も
(話し合いは行われよう)

~~持込でせよとて~~ 行われ得る。U. A. ラインで
フリーとする=U. A. といふ。せよとてのに対し

中議官より、安保条約の運用に関する
話し合いの枠内 せよとては、~~セー~~ = ~~ジョ~~ =

果存は存い。本問題については来週同行
記者団は余り実証して来存い、とらうか

6

在米記者はハナリとフック南に
来子のも知れないと述べる。

(回覧番号)

外務省電信案 (分類)

機密表示 (秘密・秘の朱印)

符号表示

※

総機202 182 -003号

秘密指除

指報公開室

第 3206 号

昭和 49 年 12 月 2 日 18 時 47 分

Y Y Y Y Y Y

大至急 至急 普通 L T F

発電係

(森田)

(※片側内は電信機記入)

大 臣 官 房 長

政務次官

事務次官

外務省副官

有田外務省副官

官 房 長

参事官 官房総務参事官

主管

アメリカ局長

参 事

北米第一課長

主管局部長 (室) 名

起案 昭和 49 年 12 月 2 日

起案者 電話番号

CQ 2439

アジア局長

南アジア第一課長

国際通令局長

政治課長

大 使 臨時代理大使

在 米

総領事

代 理

あて 米 大臣 発

電 報

在 日 参 事 官

大 使 臨時代理大使

臨時代理大使

代 理

あて

件名

米大使・米政府第一高官会議 (カボVer問題)

(米大使館)

米大使館 3193 号に因り

29日 米大使・米政府第一高官会議の冒頭に

カボVer問題 米大使館より

根拠 米大使館の通り

米大使館より 日連に因りカボVer問題の件

(昭和四二七一 改正)

GB

案

=極秘= 2

~~情報~~ 作戦の功を奏し、わが方本に決すべし

案通り動いたといふことは同慶の案であり、首を言は

ない。中、長官は案則は日軍の協力を多しといふ

自分自身といふも案意に言つて我々も勝利を収め

ては喜んでいふから首を言はる。同席の東郷次官より

大塚からアヲカ訪問の際アヲカ諸君に對し、御事かや

と云ふかや功を奏し^たと喜んでいふ首を言はる。

口裏代、わが方に報告した。

(3)

(回線番号)

外務省電信案 (分類)

5

機密表示 (極秘・秘の朱印)

符号表示

※

秘密

定解除
情報公開室

暗

略

平

総第202 220-102号

※

第1059号

※

昭和 年 月 日 時 分 発

49-12-3 12-19

大至急

至急

普通

LTF

発電係

12

(※印欄内は電信録記入)

大 臣

政務次官

事務次官

外務審議官

外務審議官

官 房 長

主管

Pメリカ局長

参 事

北米第一課長

主管局部課 (室) 名

北米第一課

起案 昭和 年 月 日

49 11 2

起草者

電話番号

松浦 (山中) (2998)

協議先

官房総務参事官

アツア局長

中国課長

YYYYYY

臨時代理大使

在 米 国

中 心

総領事

大至急

あて

外務

大臣 発

在 中 国

総領事

大使

総領事

臨時代理大使

代 理

あて

件名

大臣・キッシンジャー長官会談

(限定配布)

11月30日の木村・キッシンジャー会談における

中国関係部分次の通り。

1. 先づキッシンジャー長官より今回の訪中に

関し次の通り説明があった。

(昭和四二・七一 改正)

2

(1) 中国側との討議は中国側より最近米中関係が停滞している噂があるが、これは中国側の見解ではない。米側の見解如何と先ずたがいてきたことより始まったが、中国側との会話は昨年訪中した際と基本的に同じである。

(2) フォレスは中国側が正常化 (normalization) を強く要求したと伝えているが、まったくそのようなことはなかった。ゆえゆえは正常化の種々の態様を検討したがそれは常に会話の最後に出たものであり、かつ、緊急性をもったものではない。^{とて}

(3) その他凍結資産、交流等の ^{バイタリティ} ~~問題~~ 問題も議論した。交流については昨年度乃至10%増ということで合意し、凍結資産等残りの問題については双方が政治的決断をもって対応する

③ 中国側は、ソ連が東を攻めると見せかけて西を攻める体制にあると言っているが、実際には、ソ連が東を攻める可能性を非常に示していると思う。△

解決される問題であり、75年中には解決するであろう。

(4) ③中国側は、~~ソ連は東を~~ ~~防衛する~~ ~~西を~~ ~~攻撃する~~ ~~と言っているが、~~ ~~実際には、~~ ~~ソ連が~~ ~~反対の行動~~ ~~を取っている。~~

△われの印象では中国の最大の関心はソ連であり

台湾ではない。

④ ④のコミットメントもほいには中国

(5) フォード大統領は中国側

訪問する予定である

なんらのコミットメントもしていない。

2. 大臣より、中国側は日本に言及したかとたどし

たのに対し、「キ」長官は、次のように答えた。

(1) 中国は、日本にとり米国が最初にくることになん

ら異存はないが、中国としては二番目にきたいと

言っている。米側には異存ありやとたどしてきたの

で、われわれは日中国交正常化に反対はな

ったし、日中関係の発展になんらの障害も設け

日華に對する

ものでは無い百歩歩いた。中国はとうもり連の
影響につき心配していたようである。例えは田中
総理の退陣についてもり連が裏で動いたのではない
か(新聞記事などに対し金を出したなどを通じて)
いさゝかな事實は長らく知られていたものばかりで
あると非公式な場で主張していた。とうもり中国側
はポスト・ラオ・タオ・タオのねじりというものをよく理解
にはしていない。古いことでも新しいこととして報道される
のである(ジャクソンE院議員のSALT Iに関し
て自分より早く密約を結んだという非難など)。

(2) 今回の中国訪問は全体として、おれおれが成し
遂げたと思つて、いたことは成し遂げたと思つており
米側としては正常化に対してはなんらの代償も払う
つもりはないが、米中国係に深摺りして行きたい
意向である。しかし米側にとり受諾可能なペー

5
で崩壊する。中国側から圧力が加か、いさめけて
いない。従って日本に對し surprise はない。
3. 又、米側通報が surprise に ショック と
取ったのを聞き、「キ」長官は「ショックではないが
surprise であり」と訂正の上、「自分はショックに
ついては sensitive であり、苦笑いながら述べて
たので、~~キ~~大臣より「71年の7月及び8月のショック
の際自分が外務大臣臨時代理を勤めていた旨
説明した。これに對し「キ」長官は「当時の水水木々
の日本に關する知識は現在ほどよくなかった」と
述べ、水水木々の期間については gradual
evolution であり、中国と台湾が互いに
折衝して行く (deal with) 70年代が重要
である。水水木々は次第にその方向にむかっている
であろうし、その間日本に對しこの70年代につき

中国側は、周恩来はすべての決定の final review を行なっていると言っている。私の会ったところ、

(強調)
通報して行く旨述べた。

4 大臣より「周首相に会った由であるが周の健康状態はどうであったか」と尋ねたところ、牛長官は、「周はまったく変わってゐらず、むしろ昨年より健康そうに見える。元気な様子で会話を続けた。しかし、30分たつと、冰以工会話を続行することは許されないうとして、疲れた様子が見えなかったため会話を打ち切った。周は米中関係及び中ソ関係はなにか変わっていない」旨答えた。

5 次いで大臣より「中国側の要人と密に会われた結果、中国側の権力構造に変化がなかったと考えるかと尋ねたのに対し、牛長官は「中国訪問を通じては判断しえない。周は依然として首相として機能しているのか単に継親性を示すために使われているのかわからない。しかし鄧小平副首相

及び喬冠華外相の言、たゞは昨年同様の言

こと^{（かわりには）}は~~別~~でない。鄧小平と喬冠華^{（は）}~~は~~の

~~を通~~良好な米中国係を維持発展させてい

旨述べ、正常化は急いでいない感じであ、たゞ

マスに対しては台湾問題がある旨強調している。

また、これは葉劍英が国防大臣^{（兼）}参謀総長

である旨言っていたが非公式な場では葉劍英は

健康状態がよい旨述べていた。確かに、

自分も昨年葉劍英に会った時は^{（非常に）}年をとってみえた

と述べた。そこで大臣は「鄧小平と喬冠華

が周の後をカバーしていると思うが（「米」長官

同意を表明）、~~また~~鄧小平は文革で傷ついて

おり周と同じような影響力をもつことは無理であら

う。しかし鄧小平と喬冠華が存在する限り、日中

関係及び米中国係は変化しないと考え（「米」長官

8

再び同感の意を示す)。しかしフォード大統領の訪中が実現するまでどうなるかわからない。全人
民大会がいつ開かれるか、それまでの間の立場に
変化は生じるかを注目に深く必要がある旨述べた。
~~中長官は~~「中長官は」フォード大統領の訪中は75年の後半と
考えているが、われわれは思っていない。訪中発表
は実際の訪中と同じくらい重要である旨述べた。
~~中長官は~~大臣より、「^{新内閣が}新内閣ができてはいるが訪中
する機会もできていない。またその前に外務大臣
(自分でないかわからないか)が訪中することはある。
しかし朱側と事前に連絡をとって行きたい旨述べ
た。

6. 大臣より日本、韓国、ソ連、中国を一回りに
印度を尋ねることに對し、中国に對して
「中長官は」現在の中国の政策の基軸はソ

恐怖心がある。従って policy of restraint

を~~進~~^とめている。しかし客観情勢が熟せば、わが

世界でエネルギー問題等に因り、~~協定に~~

AGGRESSIVE ~~aggressive~~ な政策がでてくるとも考えられる。

こうなれば欧州及び日本に影響を受け、米国も

影響を受けることは免れないであろう。しかし

短期的には限り米中国係及び日中国係は

良好である。しかし5年ないし7年先を考えると

といふことが起りうる旨述べた。大臣の

「中国の内部の変化はアジアの各方面に及し

影響が及ぶ。また中ソ関係の変化も同様

である旨述べた。

(3)

秘密指定解除
情報公開室

機密表示 (機密・秘の朱印)

極中

17年5月20日

※ 総第 005590 号

※ 昭和 57 年 8 月 20 日 14 時 27 分 受付

機密表示

暗 略 平

電信案 (分類)

大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長 協議官	主管 米局長御承 米局長 米次長	※ 発電係 起案 昭和 57 年 8 月 19 日 起案者 電話番号 2464
--	---------------------------	---

情通
情外長
沢木
藤崎

大使
あて 外務大臣 発
総領事

在比
件名
日米首脳会談

主管・文書記号 米局長 (限定配布)	※ 合第 7889 号	大至急 普通	至急 (優先処理)
--------------------------	-------------	-----------	--------------

5日三木総理・フォード大統領中1回会談における東南
アジアへの言及部分概要次の通り。厳に貴使にお伝。
総理より、ガイナタ米後のアジア情勢について、当方大使
会議、大東特使の報告等より得た印象より、東南アジア

電 報 送 在 報	大 使 総領事 あて 大至急	※ 転電番号 第 号 至急 (優先処理) 普通
-----------------	-------------------------	-------------------------------

漢

字 決

(※ 印刷内は電信原記入)

(昭和五〇・六一 改正)

2
諸国は、表向きは^{かか}祭言に~~あ~~中らず、^率心づ
くしては米国のプレゼンス

を~~見~~込んで、~~こ~~子と~~思~~う。即ち、~~あ~~中らず

~~の~~教訓は、各国はウグレナムの教訓として

国内政情の安定と民生の向上に努める

べきことを痛感しており、このために米国

の^{支援}が偉大な力となることを、ウグレナム戦争

に至つた感情的要素が除去されて

現状において、現実的に考えている。

従つて、東南アジア諸国の意を

「米国離れ」と見るのは正しくない。

~~同様に~~ 日本が協力してこれらの諸国を

助けて行く^{こと}が、~~あ~~アジア太平洋地域の平和

と安定にとって必要である。と述べてゐる。

二に、~~二~~大総領より、由当方の見解

を APPRECIATE するとはへることに

ニハ諸

他国の意向きの発言と本心とを混合するほどの
ソフステイションを有してからず

東国の世論は、他国の指導者の

発言に敏感に反応し、これは議會

に於ては反映される。東国が此ら

諸国と交渉するに於ては東国の世

論^{と議會}の意向に於いては、各

の指導者によつて穩健な発言をす

るべきを希望する、と述べる。総ての

議會との関係が困難な事には

理解するも、アソフ諸国は、今や自国

の運命を真剣に考へる精神に於て

ハリ^{ニハ}アソフの諸国は、共產主義でな

將來を構へてゐる。ニハ諸国が

自信をもつて將來を築き得るよう

日本といふべきに於て援助を行く

所好であるが、米國にも緊密な連
 絡をとり行方について述べ、大統領
 より米國にも、民主主義の手続き
 にもこの諸國を支援して行方について
 述べ、このため日本にも緊密な
 連絡をとり行方について述べた。(了)

秘
無期限

官総秘第 50-89号	27
24 枚つづり	

日米防衛協力について

(坂田・シュレシンジャー会談)

日時 五〇・八・二九 一四一五〇一六二〇
場所 於 防衛庁長官室

アメリカ局安全保障課

秘

秘

あ
い
さ
つ

I 極東の軍事情勢

II 米国のアジア戦略

III 我が国の防衛構想

IV 我が国の防衛力整備について

V 日米の防衛協力について

秘

坂田大臣

御招待したところお忙しいにも拘らず、はるばる太平洋を越えて、日本をお訪ね下さった貴方に心から感謝します。

ヴェトナム以後、アジア諸国の同盟国が、少なからず動揺したことは、否定できない事実でありました。

貴方の強い調子のコミットメントは、これらの動揺を沈静させました。これらの国々も、時間が経つにつれて落ちつきを取り戻し、結局自国は自国民の手で守るという、自助の方法しかなく、自国の安全保障も軍事力だけでなく、内政を固め、経済の安定と政治的安定が最も緊要であり、その点ではやはりアメリカとも手を切らず、また援助も期待するというように、一時の感情の高ぶりからさめて現実的になつてきたと思います。なかんずく、三木総理が申しているように「韓国の安全は、朝鮮半島の平和維持に緊要であり、それは日本を含めた東アジアの平和維持に必要なこと」であります。したがって、韓国防衛の確固たる貴方のコ

I

シットメントは、韓国を勇気づけ、日本国民の多くの人にとつても、アジアの多くのの人々にも安心感をもたらしただことと思います。
(そしてそれは現状を変更せず、その結果大きな紛争や戦争は起らず、朝鮮半島の平和維持に貢献することとなるであります。)

極東の軍事情勢

坂田大臣 ポスト、インドシナにおける極東の軍事情勢、なかんずく朝鮮半島をめぐつてお話を伺いたいと思います。

シュ長官 坂田大臣の御招待に心から感謝する。私の方から招待して下さいと言わずに済みました。そうでなかつたら別の手段をとらざるを得なかつたでしょう。

東南アジアでいろいろ事件がありました。その結果を再確認する必要がある。なぜならそれはいずれも、米国と深い関係のある国であるからです。特にベトナム問題の再確認が必要です。

要があります。なぜならそれはいずれも、米国と深い関係のある国であるからです。特にベトナム問題の再確認が必要です。日米相互の信頼関係を築くために

今朝三木総理からコメントがあり、

日米防衛協力についても努力するより言われたが、こりいりこともベトナム戦争の結果へ不幸な結果に終つたが、によるものであるでしょう。私の考えでは、韓国の状況は四か月前より安定してきたと思う。これは北鮮の野望に対して強固たる方針で臨んだからであります。

韓国の安定については、政治も軍事も弱いし、外からの支援が必要です。そういう意味で三木・フォード声明は、韓国の力となつたと思ひます。純軍事的側面からいえば、韓国の軍隊は北からの侵略を抑止する力も排除する能力も持つています。

韓国の軍隊は訓練もゆきとどき、軍人も立派で士気も高い、北鮮とも一対一なら対抗できましよう。ただ航空機や戦車が不十分であるので、これらを米国に頼ることになるのです。また海軍力も不十分なので、米国から艦艇を送つています。しかし将来は、米国に頼る必要はなくなるでしよう。

米軍は、朝鮮半島における南北の軍事力のバランスを保持するよう

するつもりであるしそのため必要な期間駐留するつもりだし、その後も駐留を続ける必要があるかも知れません。

簡単に言えば、こういうことがコメントですネ。

基本的なことです。ソウルはDMZ（非武装地帯）から約二五マイルの距離にあるが、北からの侵攻を押える能力はあります。

坂田大臣 南北の軍事力は米軍の駐留によりバランスがとれていると思うが、通常兵器のみで、そうだと考えてよいのでしょうか。

シュ長官 その通りです。（Yes my judgement）

坂田大臣 北鮮に対する中・ソの態度はどうでしょう。私は、両国とも北鮮を抑制していると考えているのですが。

シュ長官 御説の通りであります。中国は金日成を抑えたと思う。しかし、ソ連の場合は、中国のように簡単なものではなくもつと複雑であるように思う。例えば朝鮮半島で紛争が起ることはデタント（緊張緩和）

に反することとで望まないであろうが、ソ連という国は機会をつかむことが上手だから、いかなる戦略をとるか予測できない。

坂田大臣 北鮮、韓国それぞれの弱点をどうお考えか。

シユ長官 北鮮の軍隊はバランスがとれているが、韓国の軍隊より小規模である。北鮮はまた防空能力が低く、空軍が弱い、ミサイル等精密兵器も劣っていると思う。

反面、韓国の軍隊はバランスがとれていないので、米軍に頼ることになる。特に空、海、対戦車、補給品については、米軍の支援によつてバランスがとれている状況であります。

Ⅱ 米国のアジア戦略

坂田大臣 次に米国のアジア戦略—といつても世界戦略につながると思うが—についてお伺いしたいと思います。

シユ長官 大臣の言われる通り、グローバルな問題とならざるを得ない。通信、輸送手段の進歩、軍事作戦スピードアップ等により、例えばアジ

アの事件がすぐ中近東にもヨーロッパにも波及する時代であり、アジアとしてのみ見る訳にはゆかないものです。

米国とその同盟国の目的は世界の軍事バランスを保つことであり、特にソ連の軍事力に対抗してのバランスに重要である。世界の軍事的バランスを崩し得るのは、ソ連のみと言つてよいから。

ソ連は東半球で最大の軍事力を持つてゐます。

西側の政策としてはワルシャワ条約に脅かされないこと。

中近東の石油が、ソ連にコントロールされないようにすること。

ソ連が手先（北鮮）を使つて、アジアの安全を損わないように留意すること。

以上のことを注意したいと思ひます。

中ソ問題は、この東西のバランスを保つためどうしても必要な要素であります。この点中国も同じ見方をしてゐると言つてよい。だから中国はNATOの一六番目の加盟国と言われる所以である。

。一般的に核について

近ごろ通常兵器による軍事能力が強調されるようになった。そうなれば核は不用になるかも知れないが、抑止力として核は必要であると考えます。

米国はアジアにひき続き軍隊を配置する考えであり、例えば、東北アジア、フィリッピンへの配置、十分な海軍力をもつて韓国への海上交通を守る決意であります。

。外国駐留、議会、国民のサポート

このように、米国軍隊の外国配置については、議会、国民のサポートが必要であるが、これはなんとか説得できるでしょう。

。同盟国のサポート

我々はまた同盟国の支持が是非必要であり、そのことによつて議会の協力を得られることにもなるのです。

坂田大臣 日本としても、米軍の極東配備は、極東の平和と安全の確保に
とつて重要と考えており、米国会や一般与論の動向から困難もあろ
が、引き続き駐留することが軍事力のバランスを保つ所以と考えます。

シュ長官 その通りで、米国は駐留させるつもりであります。

坂田大臣 次に台湾については、現状変更はないものと考えてよろしいで
しょうか。

シュ長官 その通り。(I believe so, but provided that)

中断、惜しかった

Ⅲ 我が国の防衛構想

坂田大臣 私はシュ長官の本年度の国防白書を読んで感銘を受けたことが
二つある。そこで愈々貴方にお逢いしたくなりました。

1 国防費と社会保障費その他の政策の選択について、サー・ジョン・
シュレサーを引用して、「国として最大の重要なソーシヤル・サーヴ
イスは、国民の一人ひとりの生存と自由にかかわりある安全保障に関

するものである。し
2 国防白書ににじみでているシュ長官のフィロソフィ（哲学）であります。

デタントは一見平和に見えますが、それは力の追求の結果生れたもので、力の均衡が破られれば、対決、危機が生ずる。

デタント、抑止、防衛は夫々独立した概念であるが三つは一つで互に矛盾しない。

抑止力を働かすためには、戦略核兵力、戦域核兵力、通常兵力の三つが必要であり、その一つの力を欠いてもまた防衛力とはならない。このようなシュ長官の防衛の考え方を頭において、部厚い報告をよむとよくその意味が明瞭となりました。

私は防衛庁長官に就任して以来、我が国の防衛についてこう考えております。

我が国の防衛三つの柱

1 その一つは国民の一人ひとりが侵略に抵抗する意思、国を守る気概を持つこととあります。日本人にこのような気概は潜在的にあると思
うが、現在は眠っている。これを引き出すことが私の任務であります。
2 その二つは我が国の防衛には憲法の制約がありますが、必要最小限
度の防衛力を着実に高める必要があります。
しかしそれは他国に脅威を与えるような戦前の軍隊であつてはなら
ない。

また内政を著しく圧迫するような過大な防衛力であつてもならない、
のであります。

3 その三つは大規模の攻撃や核の脅威から単独で日本及び日本人を守る
ことは、困難であるので、日本の独立と安全を期するためには、どう
しても日米安保条約は不可欠である。

また日米安保条約には、日本人一人ひとりの生存と自由がかかつて
いるが、その代り基地を提供することは、日本の義務であり、平時に

おける基地の安定的使用はきわめて大切なことと考えます。
そしてこの三つのうち一つを欠いても日本の平和と独立は守れない
ということですよ。

この私の防衛の理念というか、考え方は、あなたのフィロゾフィー
から学びました。

国民の理解と支持

ところが我が国においては、防衛について十分国民のコンセンサスを
得るまでに至っておりません。国会においても自民党以外は殆んど皆我
が自衛隊の存在に反対しております。下級審ではあるが、自衛隊の存在
に違憲の判決もでております。

そこで私が防衛庁長官になつて、まず第一にやるべきことは何か、そ
れは国民の理解と支持と協力を求めることが、何にもまして必要である
と考えました。どんなに自衛隊が立派な装備を持ち、精強であつても国
民の理解と支持がなければ、その防衛力は力の弱いものになつてしまふ

と感じました。

そこでまず第一に国民のコンセンサスを得ることを、どうして成し遂げるかを考えました。その場合の手がかりとして昭和四十七年に実施した世論調査があります。

自衛隊を必要とする者七三%、反対一二%、わからない一五%ということでありました。

そこで私はこの七三%をもつて確実に理解させる必要がある、一五%のわからない人にわからせる努力をすること、防衛庁が従来この人達にわからせる十分の努力をしたかどうか疑問に思っています。

そして私は国民の合意を求める四つの具体的な試みをはじめました。

防衛を考える会

第一は、“防衛を考える会”であります。それは一人のメンバーからなり、その中には元駐米大使牛場さんとか、NHKの解説員の平沢さんとか、いわば国民の平均的な人達がどういうふうに日本の防衛を考え

ているか、意見を求めることからはじめました。この会が始つてから國民の間にも防衛を考える空気がでてきました。

国防会議

第二は、国防会議というものがある。アメリカでいえば国家安全保障會議、總理大臣、外務大臣、防衛庁長官、大蔵大臣などを構成員としています。が、最近の一〇年間眠つていたので、これを覚ますよう努めています。

防衛白書

第三は、國民に防衛を考えてもらうために防衛白書を毎年出すことにしました、五年前一度出しただけです、私は国内向けのみならず周辺諸国にも、日本の防衛の在り方に理解を得るようなものにしたい。戦前の天皇主権の下における軍隊と主権在民の下でシビリアン・コントロールを受ける自衛隊の存在とは違うことを明らかにする必要があると思つて

防衛委員会

第四は、国会に防衛問題を専門に審議する委員会がないが、これでは國民が防衛を考えることが出来にくいと思う、防衛庁自体も従来は防衛

論議を避けて通る傾向があつたが、そりあつてはならない。

最近ではプレス防衛問題の取りあげ方が変つてきた、特に私が国会で日米防衛協力を言明してから、毎日のようにとり上げられるようになった。昨年同期の四倍の量であります。(図表のデータを示す。)

シュ長官

これは、システム。アナタシスですね。

坂田大臣 先日国会で延べ一〇時間殆んど食事抜きで論議が行われたが、国民のコンセンサスを得る為なら苦勞も喜びである。この時機にシュレシンジャー長官が来日されたことは我が国の防衛論議に花をそえ、防衛意識の高揚にも効果があると信じています。

シュ長官

一言コメントしたい。坂田大臣の姿勢がよく理解できました。

非常に有難いことです。民主主義下の防衛力にとつて、何が必要かを明快に示して頂きました。日米で安全保障についての理解が深まることを期待しています。心からコングラチュレーションを申し述べたい。

坂田大臣の三つの原則はよくわかつた。ナショナル・スピリットの
必要性、憲法の制約、更には日米安保体制と基地への理解を示して頂い
た。

自衛隊は勿論日本の防衛のためのものであつて他国に脅威を与えてい
けないことも分る。国民の理解が深まるにつれて、自衛隊に不足するも
のがでてくるのではないか、それはしだいに補えるのではないか、ウエ
ボン、ロジステイクの改良によつて任務の遂行が可能となるう。今後
防空能力やASW能力もインプルーヴできるのではないでしようか。

我が国の防衛力整備について

坂田大臣 次に我が国の防衛力整備について説明したいと思います。

・四次防の進捗状況

現在実施中の四次防衛計画は、来年度終るが、オイルショックによる不況インフレで四次防の完全達成は困難となりました。一つの例であります。四次防策定時に二〇〇億円と予定としていたDDHが五一年度要求では四七四億と二倍以上となつた。このため艦艇については一三隻一万六、〇〇〇トンの積み残しが生じ、達成は七七%にとどまつた。空は一〇〇%達成、陸は戦車で九三%の達成見込である。

・ポスト四次防について

今後の方向としては、陸の一八万人はこれ以上増加することは難しい。しかし海空については、それぞれ近代化を図る必要がある。例えば、昭和五五年度ころからF-104がフェイズ・アウトしてゆくので補完する必要がある、対潜能力の向上も必要であります。一週間前、対潜機に

乗つて訓練をみたが、潜水艦の発見が、いかに難かしいかよく分つた。A
SWは海洋国日本にとつて最も重要な機能であると考えている。

ポスト、四次防について、細部は省略するが、現在検討しているが、
量より質、抗堪性、補給、後方支援に重点をおいてまいりたいと思つて
います。

シユ長官 坂田大臣の説明の趣旨はわかりました。優先順位は我々もそ
う理解するが、一言だけ言わしていただくなら、十分なロジスティカル
な基盤（Logistical Base）が必要ではないか、どこで読んだか忘れた
が、自衛隊の機関銃弾は一分間しか射てないそうだが、非常に短い戦争
を予想しているのかもしれない。

ロジスティカル・ベースを強化すれば、北海道において北からの侵攻
に對抗できるでしょう。

坂田大臣 我々は補給、後方支援体制を重視してゆく積りでいます。次に
防衛協力について申べてみたいと思います。

坂田大臣 日米安保条約があるのに、有事の作戦協力について、日米防衛当局の内で何ら話し合うこともなく、それにふさわしい機関がないのは不思議なことだと考えていました。

三木・フォード首脳会談の共同新聞発表でも、話し合いの必要性が確認されたところであるが、それを実現したいと思つています。確かに日米のユニフォームの間では、種々研究はなされているようであるが、それを政治家同士士の責任者間でやるべきだと思います。有事の際、整合のとれた作戦行動がとりうるようにしたい。日米双方が夫々の指揮の下での連絡調整機関も必要であります。自衛隊が米軍に支援を期待していること等も明らかにしたい。そしてこれらのことについて協議する機関を設けること、両長官が少くとも年一回程度は会談することは必要であると考えます。

シユ長官 坂田大臣の話は余りにも説得力があるので、ただ一言結構というだけであります。

坂田大臣 説得力ある云々と言われるが、そもそも我が国の防衛についての理念を想いついたのは、シュレシンジャー長官の国防報告を読んでのことであつて、いふなれば、貴方は私の先生 (Professor) であります。また、この協議機関は安全保障協議委員会の枠内で行われるものと理解しているがそれでいいでしょうか。

シュ長官 結構です。

坂田大臣 さてこれからどういう運びになるんでしょうか (誰に言うともなく独話。・) 私は法学士でもなく、行政の専門家でもなく文学士でもありますので、一向これからの外交手続がわかりませんので。・。・

シュ長官 坂田大臣が、法学士でないことが羨しい。セント・イブ (St. Ivo) は、一二世紀頃「法学士ではないが、悪者でもない」と言つて、市民は皆驚いたということです。それは昔も今も変わらない。最後に坂田大臣の発言は我々にとつても極めて力強い、坂田大臣は防衛哲学者 (Defense

Philosopher) であるとともに、学者 (Scholar) でもあります。

（以下は、日米兩國の出席者間で防衛協力に関する合意文が推薦される間に、坂田とシュ長官の間で交わされた会話の内容）

坂田大臣　私は娘二人、息子二人、計四人の父親ですが、貴方は何人のお子様をお持ちですか。

シュ長官　娘四人、息子四人です。

坂田大臣　娘と息子の割合は一緒ですけれど数量は私の二倍です。貴方の体格が私の二倍はあるように。

また、第七艦隊と海上自衛隊とでは大きくて比較もできませんが、二つの関係は貴方と私との教授と学生との関係でもあると思つています。

シュ長官　教授は学生に教えられることもあるものです。

貴方が私の国防白書を読んで頂いたので、今度は私が貴方の防衛白書を読む番です。

本日は、貴方から有益な話を伺つて勇気づけられたが、この議論を続けるために、貴方を米国に御招待申し上げたいと思う。

坂田大臣　御招待を感謝申し上げます。都合がつけば御伺いします。

ここで御参考までに、大学紛争当時文部大臣として自分が取った措置を御披露申し上げたい。それはきわめてドラステイフな措置であつたので、多くの教授学生達が反対した。私は学問の自由と大学自治を守るため止むなくこのような措置を取つた。それは、(1)学長の要請をまつて警察力を導入したこと。(2)大学立法、(3)全国講演旅行による世論啓発(二か月内に三三都道府県を歴訪)、それが大学紛争鎮静に役立つたと思つています。

(ここで長期紛争校の減少のグラフを提示)

シュ長官　貴大臣の立派な措置に大いに感服する。教授を震え上らせる

ことは最もやさしいことであるが、秩序を作り出すことは最も難しいことである。貴方はその両方をやつてのけたのであるからたいしたものである。貴方の取られた三つの措置、即ち力と法律と世論喚起は、防衛政策にもあてはまるものではないでしょうか。

坂田大臣　私は一〇〇%の完全主義者ではない。民主主義の政治では、半分以上へ六〇%と七〇%の人々がよしとすれば、それでよいのではないか。

シュ長官　ある過程では六〇%と七〇%で満足することとも必要かもしれないが、目標は一〇〇%を定め、一步一步それに近づく努力が必要と思う。不十分な力はいつまでたつても不適當である。(insufficient, inadequate)

(adequate)

坂田大臣　本日の会議は成功であつたと思います。殊にシュレシンジャー長官の人柄に触れることができたことも私の大きな喜びであります。

今夕七時半よりシュ長官夫妻を夕食に御招待申し上げているが、その場でまたお会いすることを楽しみにしています。

シュ長官　本日の会議は実りある(productive)ものでありました。貴方の御招待を有難くお受けするが、貴方が先日の国会で一〇時間も質疑があつて、食事もロクロク喰べられなかつたと聞いたが、その分を今夜はとり戻していただきたい。